

14.2イ-811



1200701518022

第 8 号

昭和十五年六月

調査資料第八號

コーリン・クラアク原著

露西亞統計の批判

農林大臣官房統計課

(代 謄 寫)



始



序

本編は英國統計學界に夙に令名ある新進の統計學者コーリン・クラークの近著「露西亞統計の批判」(A Critique of Russian Statistics by Collin Clark, 1939.)を譯員今藤雄の譯したるものである。

本書の目的はロシアに於ける統計調査方法乃至その内容の批判ではなく、近代ロシアの經濟的發達を批判的に統計を利用して示すといふ點にあるが、一讀興味のあるのは、これは數字を平面的に並べたのではなく、例へば、國民所得の推移を第一次歐洲大戰前、五ヶ年計畫直前、並びに最近の狀態について述べるに當り、諸々の政策、社會情勢との關聯に於て把握せんとしてゐる點である、ロシア農村の潜在的大失業軍、五ヶ年計畫以後の工業化政策、賃銀物價政策等々が有機的に理解されてゐる。そしてロシアの蓄積資本と國民生活程度との均衡の現段階が統計的によく描き出され、國民生活程度、外國資本に對して現下の事情の下にロシアが執り得る政策を指示してゐる。

今や我國に於ても統計が最も有効に利用されねばならない秋であるが、それは行政執務上の利用といふことだけでなく、眞に國力を理解し、この急速に推進する時代に於て、一つ一つの段階に必要な政策の認識に役立つが如く利用されねばならない時であると信ずる。本書はその意味に於て好個の例であつて、統計學は經濟學でなくてはならないし、又なり得るものであることを吾人に教へるものである。斯る意味に於て統計資料の一冊に加へるものである。

昭和十五年六月

農林大臣官房統計課長

近藤康男

目次

一、序 説……………一頁

二、國民所得の概念とその評價方法……………二

三、一九一三年度國民所得の分析……………四

四、露西亞と英國の食糧消費高比較……………九

五、一九一三年度露西亞國民所得の中食糧を除く商品及び勞務に消費されたる割合の評價……………三

六、一九一三年度英露國民所得額の比較……………三

七、一九一三年前に於ける純所得の増加率……………四

八、一九一三—三〇年間に於ける純所得額の増減……………八

九、一九二八年度國民所得の評價……………九

一〇、食糧生産高に關する諸種資料……………二五

一一、一九三四年度國民所得總額の評價(ボラニイ教授の評價方法)……………二九

一二、一九三四年度國民所得の修正評價(消費財)……………三三

一三、投資財生産額の再評價……………四三

一四、國民所得總額の再評價……………四六

一五、消費財生産高に關する確證資料……………四八

一六、	ループル購買力に對する課税の影響……………	四
一七、	國民所得に關する露西亞官廳統計の檢討……………	五
一八、	人口と經濟資源……………	五
一九、	一九三四年以後の經濟的發展……………	六

露西亞統計の批判

一、序 説

本書の目的は内部の統一性を吟味し且つ諸國の統計と比較する事に依つて露西亞統計を照査し検討するにある。調査に際しては最近三十年間に於ける露西亞の一人當實收入の變動を主として分析する事とした。

本調査は露西亞の經濟生活の殆んど一切の局相に關する統計を考察した、而してその結果、諸種の障礙が介在するにも拘らず首尾一貫する成果の得られる事が瞭かと成つた。

原則としては一結論を認容するには豫め同結論を數種の相異なる資料を用ひて照査するの必要がある。

本調査では基本的方法として最近の特定時期に於ける露西亞の商品と勞務を決定し而して此等商品及び勞務を基準年度(一九三四年)に於ける英國の此等商品及び勞務の市價を用ひて表示する方法を用ひた。此の方法を用ひた理由は露西亞に於ける物價は此れが計畫經濟を建前とする政府に依り規制されて居る關係上必ずしも商品生産費又は消費者の商品需要額とは確定的な關係を維持して居らないからである。

次に述べる三ヶ年に付ては數字の詳細なる分析を試みた。第一年は總ての露西亞統計の出發點である一九一三年、第二年は五ヶ年計畫實施直前の一九二七―八年で、第三年は完全な計算を行ひ得るに至つた最近の年たる一九三四年で

ある。一九三四年には五ヶ年計畫は半ば遂行され、農業の集産主義化は完了した。一九三四年以降の年に付ては若干の假數字を計算して置いた。

次に本書に對し、有益な資料と貴重な示唆とを咨まれなかつたM・ツヴエギントツオフ氏、E・C・R・カーン氏、ボラニイ教授、W・B・レダアエイ氏、ジョン・ダイアスン氏の諸賢に多大の謝意を表明する次第である。

二、國民所得の概念とその評價方法

ソ聯邦に限らず他の諸國に於ても同様であるが經濟的進歩の確實且つ完全な唯一の尺度は國民所得に關する數字である。

國民所得の定義を下して見ると、一ヶ年間に生産され且つ消費又は投資され得る商品及び勞務の價額である。鋼鐵何噸、電力何キロワット時の如く表示する事は假令基準年次に對する百分比増加と云ふ漠然とした表示方法を用ひても相當に實體を表示し得よう、併し斯かる表示方法を用ひるならば假令表示された數字が正確であるとしても表示される實體を選択する結果として、ともすれば誤まれる印象を與へ易いのである。従つて國民所得を表示する數字のみが一切の經濟活動形態を包含し、且つ適切なウエイトを有し得る。

ソ聯邦に於ける如き計畫經濟に於ては國民所得の概念は必ずしも他國に於ける同種の概念とは同一ではない、蓋しそれはソ聯邦では特定の商品及び勞務が不自然な低價格に依り提供されて居り、その反面には不自然な高價格を以て

提供されて居るものがある關係上斯く獨斷的に決定された價格に據つて一切の商品及び勞務の生産價額を計上する事は國民所得の測定とは到底似つかぬ結果を生ずるからである。

マーシャル教授が國民所得數字の用途は經濟的發展の尺度たるに在ると説明した當時にあつては、一切の商品價格(少くもマーシャル教授は斯く思惟したものと斷定し得よう)は生産費と一致してゐた。資本主義國家に於ては獨占事業が簇生するに至つた爲マーシャル教授の斯かる定義には益々修正を施さざるを得なくなつて來たが、然かも猶同教授の定義は未だに眞理に近き何物かを包含して居る。此の斷定にして謬らずとするならば、吾人は一國の經濟的發展を測定する爲には未だに國民所得數字を相當に利用し得る譯である。露西亞では消費財の價格は生産費を遙かに超えて居る、それは國家投資事業の資金を調達する爲に消費財に頗る多額の營業稅が賦課されて居る爲に外ならない。従つて露西亞の國民所得を正確に測定するには計畫經濟の實施前の年に於ける價格乃至は特定國に於ける價格に基いて露西亞に於ける商品及び勞務を計算する方法を用ひざるを得ないのである。

マンチユスタア大學ボラニイ教授(Prof. Polanyi)は第二の方法即ち特定國の價格に據る方法を用ひて、一九三四年度に付て假調査を行つた、併し同教授の得た結果を全面的に認容するには豫め他種の方法を用ひて同結果を照査するの必要がある。

註。「マンチユスタア・スクール」第六卷に掲載の記事参照。同記事は「ソ聯邦經濟學」としてマンチユスタア大學出版部から一九三六年に分冊して出版された。

第一の方法即ち過年度の價額を以つて所得を再表示する方法はソ聯邦政府が用ひたものであつて同政府は一九一三年度の價格を用ひたものである。同政府は一九一三年度の價格を用ひて國民所得資料を一定期間に亘つて公表して來た、而して第一次五ヶ年計畫の初期以來一九二六―七年度の價格を用ひて表示せる資料を公表して來た。計畫經濟は

一九二六―七年の二年後に實施された、従つて一九二六―七年當時の相對價格は一般諸國に於ける當時の相對價格と左程懸絶するものでないと筆者は推定した。但し此の推定には若干の修正を施す必要がある。

四

三、一九一三年度國民所得の分析

プロコボウイチ教授 (Prof. Prokopovitch) 及數名の在外露國人は一九三一年度に至る迄の露西亞國民所得に關し入手し得る資料を摘要して報告書を作成した、同報告書は客觀性に富む點に於ては寔に驚嘆に價するものである。

註。パーミンガム大學露西亞部露西亞經濟事情調査局覺書第三號「一九三一年十一月刊行」。同調査局は自一九三一年五月に十一種に達する報告書を刊行した。以下本書に於ては此等報告書を「調査局第何號」と略稱す。

プロコボウイチ教授は一九一三年度の露西亞國民所得に關し唯一の正確な推計を行ひ、同推計數字はソ聯邦政府に依つて使用された。同教授は革命後多年間露西亞に滞在して居つたのである。前記報告書に於て教授はソ聯邦現在領土の一九一三年度國民所得を一三、八九六百萬ルーブルと推計して居る。同一の報告書で教授はゴスプラン（國家經濟企畫委員會）が一九一三年度分として（プロコボウイチ教授の數字に據つたのであらう）多少高い數字、即ち一四、〇二六百萬ルーブルを引用して居る。

プロコボウイチ教授は多數の細かい推論を示唆して居り、教授の意見に據ると此等推論は前掲の數字を材料とした場合に當然得られるものである―尤も此等推論を得る必要があるや否やは各人の見解に基いて決定すべき事である。

併し此等の細部に亘る推論は扱て措き相當に大きな推論が得られた、即ち教授は一九一三年度の建物及び類似の不動産の減價を八三九百萬ルーブルと見積つたのである。併し建物賃賃料より生ずる所得にして猶少しも信用されなかつた點に鑑みると、以上の如き推論を行ふ必要は認められない。一九一七年以後に於ける割安の家屋賃賃料は辛うじて建物の減價と維持費とを償ふに足るものであつたと推定し得よう。

前掲二種數字の平均を採つて見るとソ聯邦現在領土の一九一三年度に於ける國民所得額は百四十億ルーブルと見積られる。現在に於て一般に通用する國民所得の定義に以上の數字を一致させる爲には上掲の數字に包含されなかつた國家勤勞所得額として十五億ルーブルを加算せねばならぬ（國債利子及取引業經費を除く支出額。M・ミラフ博士「一九〇五―一四年の露西亞經濟事情」に據る）、その結果家屋賃賃料と勤勞所得を除いて百五十五億ルーブルに達する所得額が得られる。

註。原著では百萬の千倍を表示する爲に「milliard 十億」を使用して居り、此の語が「billion 十億」よりも正確であると斷つて居る、それは後者が英國では一兆を意味し佛、米では十億を表示するからであらう、孰れにしても此等二種の數單位は大戦後の事情を述べるに際して頗る必要である。

プロコボウイチ教授とソ聯邦政府は、國民所得の多少限定され且つ唯物主義に據る定義を用ひて居る。即ち此の定義には運輸業、卸賣小賣の配給業務、郵便事務が包含されて居るがその反面には（前掲の）家屋賃賃料、官營事業（本書では諸國に於ける國民所得の主義に従つて此れを包含した）、その外に専門業、醫業、家事勞務、用達、理髮業、馭者業等の如き多少參酌の必要ある個人的勞務が除外されて居る。

以上の各種勞務及び業務の價額を推計するには經濟的發達事情が露西亞に類似する諸國に於ける斯種の勞務及び業務が國民所得に於て占める割合を基礎とする外に方法は無い。

五

露西亞に於て此等勞務及び業務の價額が國民所得額に於て占める割合は約5%と見積り得よう、さすれば所得總額（家屋賃貸料を除く）は百六十三億ルーブルとなる。プロコボウイ教授は現在では上掲の勞務及び業務（官吏業務を除く）の割合は微々たるものに過ぎないと指摘して居るが、一九一三年當時には相當の割合を占めてゐたに相違なし。（註。調査局第三號第一頁）。

賃貸料を考察して見ると一九三三年度に於ける一切の都市家屋の價額は一四七百萬磅、地方家屋の標準額は約五〇百萬磅と推計されて居る。

註。本書第十一項一九三三年度國民所得總額の評價（ボラニイ教授の評價方法）参照

以下本書で行ふ調査に於ては再評價の單位として一九三三年度購買力の標準額を使用する豫定である、従つて以上の數字を物價變動に従つて再評價する必要を認めない。露西亞の全都市に於ける住宅に用ひ得る敷地面積は一九二四年には一九一五年に比較して二〇%減少して居り（註一）、その反面には住宅床面積は一九三四年には一九二八年に比較して二一%増加した（註二）。

註一。國際勞働局月報第二十五卷第六二一頁メケ Megnet 氏の記事参照。同氏はモスコイに於ける減少割合を二八%と見積つて居る。

註二。ソ聯邦便覽。倫敦ゴランツ出版一九三六年版第一五二頁。

若し一九二四年と一九二八年との間に約四%の増加があつたと假定するならば一九一三年と一九三四年の床面積は略同一であつたと推定される、而して此の推定は事實を裏書きし、一九一三年度の家屋賃貸料の標準額は（戦後物價を標準として）一九七百萬磅となる。

一九一三年度の露西亞に於ける一人當國民所得額は同年の爲替相場に依れば一二・五磅に達した、此の數字には農民

が自家用に供するを目的として生産した作物の價額が包含されて居る。英國では一人當所得額は五二磅であつた。以上二種の數字は直接に比較し得べき性質のものでない、それは一九一三年には如何に經濟事情が無事平穩であつたとしても、英國の磅と露西亞の此れに相當する金重量とが同一の購買力を有してゐたとは到底假定し得ないからである。

露西亞の食糧生産額の大部分が國內農場に於て消費された時代には運賃を負擔する必要がなかつた關係上低物價傾向が著しかつた。

相異なる時期に於ける各國の國民所得を相互に比較するに際しては價格差を補正する爲に物價指數を使用せねばならぬ。現在の露西亞に於て然る如く多額の間接税が賦課されて居る場合には商品價格及び勞務價格は商品生産者又は勞務提供者の所得とは頗る異なるものとならう。一切の商品をその課税されざる價格に基いて計算して物價指數を作成する便法は繁雜で到底使用に堪えないのである、従つて商品の課税されざる價格を計算して物價指數を作成すると共に他方に於て一切の間接税（關稅、營業收益税等）の徵收額を國民所得に加算せねばならない。以上一九一三年に於て計算して見ると二十億ルーブル（既掲ミラア博士の著書に據る）となり、商品及び勞務に對する課税價格に基く支出額は（家屋賃貸料を合算して）百八十三億ルーブルに達する。

以下本書に於て行ふ計算では一九一三年分と一九二八年分に於て右の方法を用ひる。一九三三四年に關する比較に於ては同方法を用ひる必要はない、それは同年に於ては所得額ではなく商品數量の相互比較が直接行はれて居るからである。此の一九一三年度所得を磅を用ひて表示するに際しては消費食糧とその他の商品及び勞務とを個別に再評價して見よう。

磅價額を用ひるならばルーブルの食糧購買力を比較的容易に表示し得よう、それは食糧生産高を比較的少數の物理的單位を用ひて表示し得るからである。反之、ルーブルの食糧以外の商品及び勞務の購買力を決定するは頗る困難で

ある。

英國商務院は一九〇五年乃至一九一二年に諸國の小賣物價の相互比較を行つた、但し不幸にして露西亞に付ては比較は行はれなかつた、併し大戰後には左記の新資料を利用し得るに至つた。

- (一) 自一九二〇年に國際勞働事務局は實質賃銀の國際比較を行ふ目的を以て食糧、燃料、石鹼の小賣物價に關する多數國の資料を蒐集した。

註。國際勞働局月報に年二回發表されて居る。詳細な訂正資料は一九二九年十月號に掲載してある。現在では此の様式に據る數字は蒐集されてゐない、併し基礎資料は引續き蒐集されて居る。

- (二) 一九三一年にフォード自動車會社は全世界の多數都市に於ける生計費の比較調査に着手した、此の調査結果に據るならば多種類の商品及び勞務の價格に關して到底他に求め得ない程に豊富な比較結果が得られる。

註。詳細に關しては國際勞働局月報一九三二年及び米國統計協會報一九三三年參照。

以上の資料を利用するならば大戰後の磅の購買力と舊露西亞領である波蘭、芬蘭及びエストニアの三ヶ國の通貨購買力との比較を行ひ得る。食糧燃料費(一九三〇年度)と被服費(一九三一年度)との比較資料も夫々個別に得られる。次に個別國の資料に物價指數を適用するならば一九一三年迄遡つて計算を行ひ得、以て同年に於ける購買力を比較し得るのである。當時前記三ヶ國は露西亞關稅壁内に在り、同率の租税を賦課されて居つてからして一九一三年度に於ける此等三ヶ國の一般物價水準を考察するならば當時の露西亞に於ける一般物價を窺知し得る譯である。

以上の資料は必ずしも首尾一貫して居る譯ではないがルーブルの保持する購買力が食糧に付ては多い事實を表示する。前記三ヶ國が食糧費の割高な所謂「食糧難地域」である事を念頭に置くらば此の事實を一層明確に把握し得よう。併し他の方面、特に被服に付てはルーブルの購買力は尠かつたらしい。先づ一九一三年度の食糧及び家屋賃賃料

を除く商品及び勞務に對するルーブルの平均購買力を同年度の英國に於ける等量の金の購買力の六〇%と看做して差支ないであらう(別表參照)。して見ると戦前の爲替相場では一磅は九・四五ルーブルであつたからして一五・七五ルーブルの購買力が當時に於て一磅の購買力と等量であつたと斷定し得よう。

次には先づ一九一三年度に於ける露西亞の食糧消費量を再評價し、而る後に以上の要素を用ひてその他の商品及び勞務を再評價して見よう(英國の戦前物價を一〇〇とす)。

	英國	エストニア	波蘭	芬蘭
都市食糧費 (一九三一年).....	一〇〇	六六	六五	七六
同 (一九一三年).....	七三	六九	五九	六五
燃料費 (一九三〇年).....	一〇〇	八一	一〇三	七七
同 (一九一三年).....	五八	八四	九四	四二
被服費 (一九三一年).....	一〇〇	：	一一三	一三〇
同 (一九一三年).....	四九	：	一〇三	一〇二

四、露西亞と英國の食糧消費高比較

現在の西歐に於ける小賣物價を用ひて露西亞國民所得の重要な——事實大部分を占める——部分である食糧消費額

を表示するは困難ではなす。

チエコウイツツ (Zschowitz) は一九一三年と一九二八年に於ける露西亞の一人當食糧消費額に関する資料を發表した(世界經濟研究所報告一九三二年四月號第五一〇頁)、此の資料は官廳統計を用ひるならば最近の分迄も作成する事が出来る。サア・ジョン・オア (Sir John Orr) とその協力者が作成した一九三四年度英國食糧消費高(「食糧・保健・所得」一九三六年倫敦刊行に據る)との比較に便ならしめる爲露西亞の週當一人當食糧消費高をオンスを以て表示し且つ一九三四年度英國小賣物價を用ひて表示した。戦後の數字に付ても此の表示方法を用ひる事とする。さすれば英露の數字を比較するに當つて相當に正確な基準が得られよう。

(三五・二オンスは一キロ、二四〇ペンスは一磅とす)

	週當一人當消費高 (オンス)		一九三四年度英國小賣物價に依る價格 (ペンス)	
	露西亞 一九三三年	露西亞 一九三七年	英國 一九三四年	露西亞 一九三三年
小麥とライ麥……………	一五二・五	一四四・〇	六一・〇	一九・〇
(パンとして表示す)	九・〇	八・三	一七・八	一・四
砂 糖……………	八〇・〇	八〇・〇	六四・〇	三・七
馬鈴薯……………	二・七	二・七	二・七	〇・二
亞麻仁油と向日葵油……………	一六・八	一八・六	六・九	一一・〇
肉類と脂肪……………	一一二・五	一二八・〇	二五四・〇	七七・七
牛乳と乳製品……………	〇・九	一・一	二・九	一・三
(牛乳として表示す)				
卵 (個數)……………				
計……………			四四・三	四五・六
			三四・二	六四・一

(備考) ソ聯邦政府が先般萬國農事協會に報告せる數字を同協會の農業年鑑より摘録すると次の如くである。

	一九三四年	一九三五年
牛乳生産高(百萬キントル)……………	二〇一・五	二二三・三
バター輸出高に相當する牛乳を控除せる牛乳生産高……………	一八八・九	二〇三・六
週當一人當オンス……………	七六・〇	八〇・〇
肉類生産高(百萬キントル)……………	一七・一四	一九・九五
週當一人當オンス……………	六・九	七・八

サア・ジョン・オアの統計表に示してある如く右表に掲げた各種食糧は英國食糧消費高の六〇%を表示するに過ぎない。併し此の食糧消費高が露西亞の食糧消費高の殆んど全部を網羅して居るものと斷定しても誤りではない。露西亞に於ける特定數の家庭の月別食費は一九二五年より一九二七年に至る分が調査されてある。

註。國際勞働局月報一九二九年第五六八頁參照。

此等の資料を檢して見ると前掲表から除外された(價額の點に於て)重要な食糧は蔬菜、魚類、茶のみであつて、此等の資料には斯く除外された各個食糧の重要性を窺ふに足る數量數字が含まれて居る。恐らく此等の除外された項目の分としては僅か一二%を附加すれば充分であらう。

一九二八年と一九三四年の限定食量は後節に於て考察する事として此處では一九一三年に於ける露國民の食費は平

均して現在の英國の週當一人當約四九・六ペンスに相當するものと推計して置く。サア・ジョン・オアの計算結果に據ると此の食費は英國國民の最下層階級(全國民の一割)の支出するものであつて、炭水化物(澱物)を除いては殆んど何等の營養素を攝取するに足るものではない。

ボラニイ教授は一九三四年度の露西亞に於ける一人當食糧消費高を計算して見たが、その作成した統計表には若干の誤謬が含まれて居る。即ち同教授の穀類と馬鈴薯に關する推計は頗る過大評價に陥つてゐる、それは同教授が作物生産高をば單に人口で除し、その結果に基いて露國民が週當一人當二九磅八オンスの澱粉質食料を食食するとの奇想天外な斷定を下したからである。

此等穀類と馬鈴薯の大部分が家畜飼料として消費されて居る事は説明する迄もなく瞭かである、併しそれにしても人間食料に充用される割合は決して尠しとしない、但し澱粉質食料は如何に過食しても到底肉類及び牛乳の代用品たり得ないのである。

五、一九一三年度露西亞國民所得の中食糧を除く

商品及び勞務に消費されたる割合の評價

次に一九一三年度の國民所得數字を再び吟味して見ると、所得總額百八十三億ルーブルの中で七十五億ルーブルは農業及水産業の純生産額を表示して居る(プロコポウイツチの計算に據る)。農産物輸出額は十億二千萬ルーブルであ

る(世界經濟研究所一九三六年三月號第四二八頁、調査局報告第二號第一一頁には十一億二千萬ルーブルと掲げてある)。此の輸出額から運賃及び取引費を控除すると殘額は約九億ルーブルである。此の數字を前掲の農業純生産額より控除すると國內消費に向けた食糧の農場に於ける價額として六十六億ルーブルの數字が得られる。都市住民の消費する食糧(總生産額の四分の一の價額中三〇%を占めると假定して)の運賃及び取引費は五億ルーブルと推計して差支ないであらう。以上を綜合すると、一九一三年度國民所得(家屋賃賃料を除く)の内譯は食糧に向けた分が七十一億ルーブル、食糧を除く商品及び勞務に向けた分は百一十一億ルーブル(輸出品と交換した輸入品價額六億ルーブルを包含する)となる。

六、一九一三年度英露國民所得額の比較

プロコポウイチ教授の推計に従つて(註一)一九一三年度人口を一三七、八〇〇、〇〇〇人とすると磅にて表示せる一九三四年度の購買力を用ひて所得總額を再評價し得る。既に述べた通り食糧を除いた商品に付ては一九一三年の一五・七五ルーブルは同年の一磅と同一の購買力を有して居る。然るに英國の食糧を除いた項目の小賣物價指數は一九一四年から一九三四年の間に七〇%高騰した(註二)、従つて一九一三年の九・二七ルーブルは一九三四年の一磅と同一の購買力を有して居ると斷定し得よう。即ち一人當平均所得額は一九三四年の物價を用ひて表示すれば二一磅である。

註一。既掲プロコボウイテ教授の計算に據る。若干の他の推計人口は約百萬人程の相違を示して居る、それはボカーラ勞農自治共和國とキーヴァ地方の人口が正確に調査されてゐない爲である。

註二。第八十次英國統計摘要第一三七頁。食糧のウェイトは六〇%である。

一九一三年露西亞國民所得再評價結果

	十億ルーブル	百萬磅
食糧.....	七・一	一、四八〇
家屋賃貨料.....	...	一九七
その他の商品及び勞務.....	一・二	一、二〇九
計.....	...	二、八八六

同年の英國に於ける一人當國民所得額を同一の方法と同一の單位を用ひて計算すると八八・五磅即ち四・二倍となる

註。コウリン・クラアク「國民所得と國民支出」參照。第一表、第八九表、第一〇三表を綜合した資料に據つた。

七、一九一三年前に於ける純所得の増加率

統計數字を検討するに際して當概數字が表示する運動の動向を參酌せぬならば極めて正鵠を失した斷定を下す恐れがある。従つて革命後の露西亞に於ける經濟的發展の程度を表示する資料を正確に批判する爲には該資料を一九一三

年前の經濟的發展程度を背景として考察せざるを得ないのである。

プロコボウイテ教授はソ聯邦現在人口の大部分を包含する歐羅巴露西亞の五十州に關する推計數字を引用して居る（既掲の資料參照）。此等の州に於ける所得總額を一九一三年の物價を用ひて表示すると一九〇〇年には八十一億九千萬ルーブルで、一九一三年には百十三億四千萬ルーブル（三八・五%の増加）に激増した。現ソ聯邦の歐羅巴領人口は一八九七年には八七、五〇〇、〇〇〇人で、一九一〇年には一一二、三〇〇、〇〇〇人に増加した、即ち十三年間に二八・三%の増加を示して居る。

註。獨逸國統計年鑑國際篇一九三六年版參照。歐羅巴領のみに關する數字である事に注意せねばならない。

一九〇〇年と一九一三年の間の増加率も以上の増加率と殆んど同一であつたと推定し得よう。従つて此の十三年間に於ける一人當純所得額は八%増加したのである。前記の「五十州」には舊露領であつた新興諸國に包含されて居る領土が含まれて居る。此等諸州に於ける進歩發達の程度が露西亞本土よりも高いか低いかは不詳である、併し孰れにしてもそれが爲に上掲の結果が左程影響を蒙る事は有り得ないと斷じ得よう。

以上よりも更に邁つた年に付ては斷片的な資料が得られるに過ぎない。一八七〇年より一九一三年迄の穀物生産高と家畜頭數とを比較して見ると一八七〇年以後に於ける農業の發達程度の輪廓は明瞭となるであらう。次に掲げる統計表の一八七〇年度數字は當時のセンサス結果に據る（註一）。一九一三年度數字は現ソ聯領土に關するものである（註二）、これに反し一八七〇年度數字は當時の歐羅巴露西亞全土を表示する。斯様に以上二種の數字が性質を異にして居る點に鑑みて筆者は一人當生産高を計算し以て兩者間の不同を可及的排除する事に努めた（註三）。

註一。ミチエルが英國王立統計協會報一八七二年第三六二頁に引用した數字である。

註二。ソ聯邦便覽に據る。

註三。一八七〇年度數字の一部は獨逸國統計年鑑に據る。

	人 (百萬人)	穀物收穫高 (百萬噸)	馬 (百萬頭)	牛 (百萬頭)	綿 (百萬頭)	羊 (百萬頭)	豚 (百萬頭)
一八七〇年(歐羅巴露西亞).....	七一・九	四〇・五	二〇・〇	二八・五	六四・五	一一・〇	
一九一三年(現ソ聯領土).....	一三七・八	八〇・一	三五・八	六〇・六	一一三・〇	二〇・九	
増減割合(%).....	増 九二	増 九八	増 七九	増 一一三	増 七五	増 九〇	

右表を検すると人口増加割合九二%に對して食糧生産高の増加割合は一〇〇%と推定される。一八七〇年の製造工業手工業生産總額は九億五千萬ルーブルである(前掲英國王立統計協會報一八七二年第三六二頁参照)。

同年の純生産額と總生産額との差額は現在に於ける程には大きくはなかつたと推定される。現ソ聯領土の一九一三年度の工業純生産額は三、一三二百萬ルーブルであつた。一人當工業生産額は此の額の三倍乃至四倍に達したものと推定される、併し一九一三年に於てすら工業生産額は國民所得の二二%を占めてゐたに過ぎない(調査局報告第三號第一三頁)。

諸種の事實を綜合して見ると一八七〇—一九一三年の露西亞に於ける一人當純所得額の増加割合は僅か二〇%と推定される。

レオン・レヴィ教授(Prof. Leon Levi)は一八六〇年に露西亞國民所得の絶對的推計を行つた(英國王立統計協會報一八六〇年第四〇頁)。併し不幸にして同教授の推計方法の細部とその用ひた資料は發表されなかつた、併し同教授の行つた他の研究から推定して見れば此の推計結果は相當に正確であつたと斷定し得よう。同教授は露西亞の人口を六千萬人、國民所得を四億磅と推計した。此の推計に従ふと一八六〇年に於ける一人當所得額は約四〇ルーブルであ

る。然るにプロコポウィチ教授の計算に據ると一九〇〇年に於ける所得額は七七ルーブルと成つてゐる。一八六〇年の穀物價格(註)(唯一の資料である)は一九〇〇年の水準よりも約二〇%低かつた様である。此の數字を基礎とすれば一八六〇年より一九〇〇年に至る間に於て一人當純所得額は頗る増加したとの斷定を下し得よう。

註。商務院刊行「英國及び諸外國の貿易と工業に關する覺書一九〇四年」(財政報告書)の物價表参照。

前記期間に於ては露西亞の人口は急激に増加して居り且つ經濟資源は殆んど農業資源に限られてゐた、従つて同國で生活標準が多少なりとも昂まつた事は寔に顯著な現象であると謂はねばならない。参考迄に人口増加割合を次に掲げて置く。

年	次	每十年人口増加割合(%)
一八三六—六七.....		一五・〇
一八七〇—八〇.....		二五・〇
一八八〇—九七.....		八・〇
一八九七—一九一〇.....		二一・五
一九二一—三二.....		二五・〇

註。一八三六年分は王立統計協會報一八四二年第三〇〇頁のスコラツェンスキイ(Shchastlivy)の記事に據る。一八六七年份に付ては同會報一八七二年に據り、一八七〇—一九一〇年分は獨逸國統計年鑑、一九二二年以降はソ聯邦便覽に據る。

經濟の發展過程は言ふ迄もなく不規則であつて、一八八〇—一九七年の大飢饉と移住とに原因する人口増加率の激減は此の事實を證明して居る。但し最近十ヶ年間は露西亞人口は前古未曾有の激増振りを示して居る。

八、一九一三—三〇年間に於ける純所得額の増減

プロコボウイチ教授の「ソ聯邦經濟事情(一九二四年)」には一九一六—二二年の深刻な不況時に關する若干の推計數字が掲載してある。即ち、一九一三年の物價を用ひて表示して見ると、一人當國民所得額は一九一三年の一〇〇ルーブルから一九二一年の三九ルーブルに惨落した。一方、一人當農業生産高は三七%の激減振りを示した——それが爲に多數地方の住民は營養不良より飢餓へ、又は飢餓より餓死へと顛落したのである。然かも工業生産高は農産物の激減にも優る激退を示し、無慮七〇%も減少した、加ふるに運輸業、貿易、その他の部門より生ずる所得は九〇%もの激減振りを示すに至つた。

プロコボウイチ教授の最近の報告に據ると一九一三年度物價を用ひて表示した國民所得は一九二二年から一九三〇年に掛けて急激な増加を示して居る。

一九一三年度物價を基準とせる國民所得額(單位十億ルーブル)

年	次	農業所得額	國民所得總額	一九一三年度物價を基準とする一人當國民所得額(ルーブル)
一九一三	七・二九	一三・九〇	一〇一
一九二二	五・三七	八・〇六	六〇

一九二四	五・六七	一〇・七六	七六
一九二五	七・一五	一三・一六	九一
一九二六	七・三一	一四・〇九	九五
一九二七	七・二四	一五・一四	一〇〇
一九二八	七・三四	一六・六五	一〇八
一九二九	七・五二	一九・七七	一二五

同教授の計算に従ふと、一九二七八年(一九二七年十月一日以降の年)の一人當純所得額は戦前の水準に迄昂まり、農業所得額も大體に於て戦前の水準を彷徨して居つた、換言すれば、農業所得は人口程には増加し得なかつたのである、但し食糧輸出額が減少したので一人當食糧消費高は一九一三年と同一であり而かも同年よりも一層均等に分配された。

九、一九二八年度國民所得の評價

次に觀察の第二の出發點として利用するに適當な年である一九二七—八年——此の年は本格的な計畫經濟が軌道に乗り出した直前の「準社會主義」の年である——に關する數字を照査するには別個の若干の資料がある。報告書に掲載

されてある)時價を以て評價せる國民所得額は二三、七六〇百萬ルーブルであつた。非農業所得額は一三、五六〇百萬ルーブルであつて、國民所得の完全な數字を得る爲には此の所得額に國家が通常の經濟領域(國防、教育、その他)以外で遂行した特定事業の價額を加算しなくてはならぬ。此の價額は一九二七—八年には二十二億ルーブル(註)であつた、此れに非農業所得額を合算すると一五、七六〇百萬ルーブルと成る。

註。ソ聯邦便覽第三一三頁。社會事業費、教育費、國防費、行政費、地方費を含む。

此の額に間接税六十億ルーブル(註一)を加算せねばならぬ。すると非農業所得額は二百十八億ルーブル、即ち所得總額は三百二十億ルーブルと成る。此の中で六十七億ルーブル(註二)は都市賃労働者の所得額であつて、彼等が現金で受取る社會保險扶助料を合算すると此の額は七十億ルーブルと成る(註三)。投資總額は七十三億ルーブルに達して居る(註四)。

註一。世界經濟統計便覽に據ると政府所得總額は七十億ルーブルで、その中約十億ルーブルは直接税である。

註二。世界經濟統計便覽に據る。農業労働者を含まず。

註三。ソ聯邦便覽に據る。

註四。前掲統計便覽に據る。

次に以上の數字を磅を用ひて表示せねばならぬが、後掲の理由に基いて、投資總額七十三億ルーブルを三億五百万磅として評價して置く必要がある。

併し固定資本の減價を參酌しなければならぬ。プロコボウイチ教授は一九二九—三〇年度の減價を三十億ルーブルと見積つて居る(調査局報告第三號第八頁)。一九三三年度物價を基準とすれば一九二八年度の固定資本額は四百九十四億ルーブルであつた(ソ聯邦便覽第一四六頁)。此の額に六%の因子を適用すると(第十三項參照)一九三三年度物價

を基準として三十億ルーブル、一九二八年度物價を基準として二十億ルーブルの數字が得られる。

食糧及び家賃賃賃料を除いた他の商品の場合には一九二七—八年度に於て一九一三年度水準よりも一〇〇%の増加率を示す工業品の小賣物價指數(註)を用ひて關係資料と一九一三年の資料との相關々係を保たせることが出来る。

註。倫敦劍橋經濟調查部刊行「モスコウ景氣研究所報告」(調査局報告第六號第二一頁參照)には一〇〇%乃至一一七%の數字が掲げてある。

農業純生産額は百二億ルーブルで(調査局報告第三號第二三頁)、輸出額を除外すれば九十九億ルーブルである(調査局報告第二號に據れば輸出額は十一億一千萬ルーブルである)。

都市賃労働者所得の四五%即ち三十二億ルーブルは食費として支出された(國際労働局月報一九二九年第五六八頁)。小賣業売上高は百五十二億ルーブルで、食費を除けば百二十億ルーブルであつた(統計便覽に據る)。次に此の數字に同一の基準を用ひて時價に換算された官公吏勞務價額二十二億ルーブルを合すると百四十二億ルーブルとなる。此の額は一九一三年度の七十一億ルーブル乃至一九三三年度の購買力を用ひて表示すれば七億六千八百萬磅に等しい。前掲の如く一九二八年度の週一人當食糧消費額を磅にて表示すれば四五・六ペンスで、總額は十六億八千萬磅である。

一九一三年又は一九三四年よりも狭小な床面積に對する家賃賃賃料は一億七千萬磅と見積つて差支ないであらう。都市家族の支出した家賃賃賃料は所得の七・七%即ち五億ルーブルで(國際労働局月報一九二九年第五六八頁)、此の額を前掲の三百二十億ルーブルに加算すれば三百二十五億ルーブルになる。此の額の支出内譯は次表の通りである。

支出費目	十億ルーブル	百萬磅
食費.....	10.5	1,680

家賃賃料.....	〇・五	一七〇
投資額.....	七・三	三〇五
その他の商品及勞務.....	一四・二	七六八
計.....	三二・五	二、九二三

即ち一人當平均純所得額は一九一三年度のそれに比し瞭かに低下して居る。人口一人當所得額は人口が激増した爲に一九・四磅即ち一九一三年度のそれに比し七・五%減少して居る。

プロコボウイチ教授の推計に據れば一九二七—八年度の一人當純所得額は一九一三年度のそれに比し僅か〇・七%減少して居るに過ぎない。工業品卸賣物價は一九一三年より一九二八年迄の間に六三%の増加を示し、非農業所得額は七一%の増加を示して居る。

併し一九一三年と一九二八年の數字に付ては減價を參酌せねばならぬ、減價は一九二八年度には二十億ルーブル即ち八千三百萬磅と見積られて居り、一九一三年分は同年物價を以て表示すれば約十億ルーブル、即ち八千三百萬磅である。

現在に於ても猶ルーブルの購買力は頗る變動して居る。食糧に付て見ると六・五ルーブルの購買力は一九三四年の一磅の購買力に等しい、然るに食糧を除いた他の消費商品及び勞務に付ては一八・五ルーブルは一磅に等しく、投資財に付ては實に二四ルーブルが一磅に等しいのである。以上の數字は一面に於ては新工業施設に於ける生産費の多い事實を物語り、他面では「貿易の内部條件」をして工業に有利で農業に不利な動向に誘導しようとするソ聯邦政府の積極的な政策を反映して居る。

小賣食料に對するルーブルの購買力に關しては以上の外にもヨリ一層確實な證據資料を蒐集する事が出来る。國際勞働事務局は一九二八年四月に(前後を通じ此の場合だけであるが)モスコウと倫敦に於ける食糧と燃料との小賣價格を參考として兩市の實質賃銀を比較して(但し他の商品の價格を比較し得なかつた)(調査局覺書第六號)。その結果に據るとモスコウの實質賃銀は倫敦のその丁度五〇%であつた。一九二八年度の露西亞勞働者全部の賃銀平均年額は七〇四ルーブルであつた(經濟便覽に據る)。一方倫敦に於ける平均年額は一一五・三磅であつた。従つて兩市に於ける食糧と燃料との價格に限つて言ふならば一九二八年の一一・二ルーブルは一磅と等量の購買力を有してゐた譯である。但し生産された食糧の大半は農民自身に依つて消費され、且つ頗る低額の卸賣價格を基準として國民所得統計に包含された。

一九二八年度の露西亞に於ける食糧小賣價格(既掲モスコウ景氣研究所報告參照)は一九一三年の水準よりも九〇%高く、英國のそれは五五%高かつた。一九一三年度の全工業勞働者の平均賃銀は露西亞では三〇三ルーブル(調査局覺書第六號)で、英國では(一九二八年には一一五・三磅であつたと假定して)六一・二磅(註)であつた。従つて食糧價格のみの變動を基準とする實質賃銀の増加は英國では二一%、露西亞では二二・五%であつた。由つて、前掲の國際勞働事務局の比較結果が正確であるとするならば露西亞の平均工業賃銀の(食糧に對する)購買力は當時の英國に於ける平均賃銀の四九%であつたに相違ない。露西亞の食糧小賣價格が英國のそれよりも一二%低いと假定して、一九一三年度の數字を直接に比較して見ると、兩者の割合は五九%となる。

註。ボレーイ教授が定期に發表する指數に據ると一九二四年の平均賃銀は一九二八年と比較して約一%高い、次に同教授の特別覺書「倫敦劍橋經濟調査部、一九二九年一月」では一九二四年の平均賃銀は一九一四年よりも九〇%高くなつて居る。

此の割合は一人當純所得の割合が四・一%に過ぎない事を念頭に置くならば極めて高い割合である、換言すれば一

九一三年及び一九二八年に於ける露西亞工業労働者の生活標準は農民階級のそれを遙かに凌駕して居つたと断定し得よう。

以上に比較すると實質賃銀の數字は、食糧を除いた他の商品の價格を考慮するならば、ヨリ包括的な内容を有して居る。

モスコウ景氣研究所の推計(註)に據ると都市労働者の實質賃銀は一九二六—七年には一九一三年に比して一七%増加しその外に労働時間も短縮された。(註。倫敦銀橋經濟調査部、特別覺書第二十五號第二頁)

パーミンガム研究所報告第六號には社會事業扶助料と控除額とを參照して實質賃銀を綿密に推計した結果が掲載してある。同結果に従ふと斯かる意味に於ての實質賃銀は一九一三年の水準に比し一九二六—七年には二六%、一九二七—八年には二八%夫々増加して居る。

次に右の推計結果で興味に價するは一九〇〇—一九一三年には全國民の一人當平均純所得額が既述の如く八%と見積られたに比し實質賃銀が僅か六%増加したに過ぎない事である。

一九一三—二八年には都市労働者の實質賃銀が増加傾向を辿つたのに反して農民階級の經濟的地位は極めて悪化した。農村に於ける一人當平均所得額は一九一三年には工業に於ける平均所得額の三五%に過ぎなかつた(調査局報告第六號に據る)、而かも他の割合は一九二七—八年には二四・五%に迄惨落したのである。加ふるに、農村人の唯一の購入品である工業製品の小賣價格は實に一〇〇%の増加を示したに反して、食糧小賣價格の増加率は九〇%であつた。

一〇、食糧生産高に關する諸種資料

次には一九三四年を考察して見る事とし、先づ手始めに食料品の生産高を檢討して見よう。既掲の表に示した如く人口一人當食糧消費額は一九三四年には六年前に比較して一八%減少して居る。此等の資料を照査するには此等と全く性質を異にする別個の照査材料を利用し得る。此の材料は即ち國際聯盟が毎年刊行する「世界の生産額と物價」に掲載する世界の農産物及びその他の原始生産物の生産額指數である、此等指數の基礎資料は國別種類別に一切の生産額を一九三〇年度の米國弗を用ひて表示したものである(但し米國弗に依る價額表示は第一回刊行年度に於て完全に行はれたに過ぎない)。爾來此等指數は大陸別に切り離して發表されて來た、但し歐羅巴の分はソ聯邦を包含せるものと除外せるものとの二種が發表されて居るので、此等指數に基き逆算を行ふならば基礎資料を容易に算定し得る。次表に於ては農業生産額は棉花、煙草、亞麻、種子、その他の數字を包含して居る關係上食糧生産高よりも多くなつて居る。

露西亞農業生産額(百萬弗)

年	次	食糧	その他の農産物
一九二七	三、八一四	四、二二〇
一九二八	三、八五〇	四、二九八

一九三二	三、五一五	三、九九三
一九三三	四、〇六四	四、六三三
一九三四	四、二四五	四、八一

右表の食糧に関する数字は飼料として消費した穀類を包含して居る爲に頗る高い額を表示する、併し果實と蔬菜とを包含して居らぬ關係上異常に低い額を表示して居る。

次には世界市場の相場で処分されたと思惟される食糧輸出額を考察して見ねばならぬ、斯かる推定に基いてルーブルを單位として調査された價額を現在の爲替相場に従つて弗に換算すると次表に示す様な結果が得られる。

年次	食糧		額		ソ聯國內食糧消費高	
	百萬ルーブル	百萬弗	一九三〇年度價格に換算せる額	一九三〇年度價格に換算せる額	年當一人當消費高(弗)	
一九二七	二九五	一五二・〇	一三〇・〇	三、六七六	二五・〇〇	
一九二八	一〇二	五二・五	四四・五	三、八〇六	二五・三二	
一九三二	七二	三七・〇	七二・〇	三、四四三	二一・〇五	
一九三三	八四	六〇・五	一〇九・〇	三、九五三	二三・八五	
一九三四	五〇	四三・五	六一・〇	四、一八四	二四・九〇	

右表を見ると、(集産化の危機であつた)一九二八―三二年には食糧價格は慘落して居る、併し一九三四年には相當に上昇して居る。而して一九二八―三四年の生産額中で増加したのは主として穀物及び馬鈴薯であり、減少したのは

主として牛乳と肉類であつた。但し前者には飼料として消費せる分も含まれて居る、従つて一九三四年度の増加額は多少過大に評價されてゐると断定し得る。

以上の價額数字を一九三四年度の英國小賣物價に換算するに當つて、前掲の表との比較に便ならしめる爲に一九三〇年度に於ては英米の食糧卸賣價格は均衡を保つてゐたと假定し得る(此の假定は實相に近いものである)。一九三〇年の英國に於ける食糧小賣價格は(國税を除いて)一、三五〇百萬磅、主要食糧の總價額は八二〇百萬磅(コリン・クラク「國民所得と國民支出」参照)。従つて卸賣價格二五弗は一九三〇年度英國小賣價格に依る年當八・四六磅、乃至は一九三四年度小賣價格の七・二四磅を表示する。

以上の追加資料に據ると、消費食糧の小賣價格として年當一人當七磅乃至一〇磅の数字が得られる、而して此等の数字を超えた價格も此等よりも低い價格も左程正確なものではない。

次には一九二六―二七年の購買力(ルーブル)を用ひて農業純生産額を表示したソ聯政府の統計を検討して見よう(一九二七―八年迄は調査局報告第三號、一九三二年以降はソ聯便覽に據る)。

年	次	純生産額(種子、飼料等を除く)(十億ルーブル)	國內食糧消費額(輸出額(註一)と工業用作物(註二)を除く)	人口一人當(年當ルーブル)
一九一三		九・一三	七・二(概數)	五二・一
一九二七(一九二六―七)		九・一六	七・九六	五四・〇
一九二八(一九二七―八)		九・〇六	八・〇二	五三・〇
一九三二		八・四〇	七・二五	四四・二
一九三三		九・二〇	七・八五	四七・四

一九三四	九・八〇	八・五〇	五〇・五
------	------	------	------

註一。 調査局報告第二號に據る。
 註二。 國際聯盟の調査に據る。

此の政府資料は、數字を検すれば瞭かである如く、一九二八―三二年間の農業生産高減少を過少評價しようとするものではない。

一九三〇年迄に付て計算されたソ聯邦小賣物價指數(既掲モスコイ景氣研究所報告に據る)に據ると農産物價は一九二六―七年には一九一三年に比較して五七%上昇した。他方に於ては、プロコボウイテ教授が肯定した政府の國民所得調査では二五%の農産物價増加率が使用された。筆者の推定に従へば、前記の増加率五七%には租税が包含されて居る、従つて比較を行ふ爲には一九二六―七年度の物價は一九一三年度の物價よりも二五%の増加を示して居ると假定し得よう。

此の場合には一九二六―七年度の物價に依る五〇・五ルーブルの消費額は一九一三年度物價を用ひるならば四〇・四ルーブル即ち四・八五磅を表示する——此の場合は前掲の一九一三年度ルーブルの食料購買力を表示する數字を使用した。此の數字を先づ一九三〇年度卸賣物價に換算し、次に一九三四年度の小賣物價に換算すると八・七磅の數字が得られる。つまり以上三種の方法を用ひて次の結果が得られる譯である。

一九三四年度英國小賣物價を以て再評價せる露西亞人口一人當
 食糧消費額 (年額を磅にて表示す)

	一九一三	一九二七―八	一九三四
一人當主要食糧消費額の直接評價	一〇・九〇	一一・三	八・四
一九三〇年度米穀物價を以て計算したる國際聯盟の資料(種子及び飼料の控除額が魚類、果實、その他の省略せる額に等しと假定する)	七・二四	七・三	七・二
政府の純生産額數字(一九一三年度英露小賣物價の比例を基準とす)	九・〇〇	九・二	八・七

絶對的水準は各場合毎に異なつて居る、併し増減の方向は孰れの場合にも同一である。従來行はれた計算は第一の方法に據つて居り、それは此の方法が

- (一) 食糧消費高の資料が實査結果に據つて居り
- (二) 他の二方法に於けるとは異なり非露西亞ウエイトを含む累年物價の換算を行ふ必要がない

との二つの理由に基き最も正確であると信ぜられてゐるからである。但し現實の食糧消費額が既に掲げた消費額よりも約二五%低い事は有り得るかも知れぬ、とは云ふものゝ斯かる可能性は頗る薄弱である。第二と第三の方法に従ふと一九三四年度の一人當食糧消費額は大體に於て一九一三年度の水準に在つたものと推定され、第一の方法を用ひて計算すると一九一三―三四年の低落割合は一五%と成るが、恐らく此の割合は一九三四年度に關する過小評價の限度を表示するものであらう。

一一、一九三四年度國民所得總額の評價(ボラニイ教授の評價方法)

次にはボラニイ教授が用いた一九三四年度國民所得再評價方法(「マンチエスタア・スクール」第六卷に掲載の記事参照)を考察して見よう。同教授の推計に従ふと一九三四年度の農業生産額は一九一三年度と大體に於て等しく(政府の推計も七%の増加率を示すに過ぎない)その卸賣價格(小賣價格ではない)は一、二〇〇百萬磅である。同教授は次に英國物價を用ひて賃労働者とその他の非農業者の所得並に投資財の生産額の再評價を行つた、その結果に據ると一九三二年に支給された一切の賃銀と給料の平均月額は一三〇ルーブルであつた。一九三四年度の數字はボラニイ教授が調査を行つた當時は不明であつたが、その後判明した結果に據ると、平均月額一四九・三ルーブルに達して居る(統計便覽に據る)。同教授はパン定量と工場食事が市價以下の値段であるとの事實を参考として賃賃月額一四二ルーブルの一工業労働者の收支を分析した。同教授は労働者一人當に扶養者一人と假定したが、此の割合は大體に於て普遍的現象である。

公債應募額は後節に於て投資財の生産額を算定する場合に計算する豫定である。

W・B・レダウェイ(W. B. Redaway)氏は(筆者への通信に於て)ボラニイ教授の掲げたパン定量を肯定せず、此の定量は労働者一人當月額四五疋で、その平均價格は一九三四年度には一疋當〇・六五ルーブルであると主張して居る。

レダウェイ氏の掲げた數字は正鵠を得て居るものと推定される。チエコウイツチの資料に據ると都市人口一人當穀物年消費額は一九一三年と一九二五年には一九〇疋で、一九二八年には一七九疋であつた。都市労働者の一九三四年度に於ける消費額は約四〇〇疋、即ち月額三三疋となる(労働者數と總人口の割合に據つて計算した)。因に一疋の穀物は約一疋のパンと成る。

英國物價に基く一九三四年度露西亞労働者賃銀の購買力再評價結果

	月 ルーブル額	英貨換算 志 片額
公債應募額	七	...
住宅面積一〇平方米の賃貸料	五	〇
交通費	九	〇
工場食費	一八	三
パン定量(四五疋)	四五	六
光熱費	八	〇
パン以外の食糧及び工業品の費用	五〇	〇
計	一四二	六

M・ツフエギントツオフ氏(M. Zvegintsov)が筆者へ提供した一九三四年度の小麦粉「組合」小賣價格に據るとライ麦粉は一疋に付き〇・六六ルーブル、小麦粉は〇・七二ルーブルであつた。小麦粉に比しパンの重量多い事實と製パン費とを參照して以上の價格に基きパンの價格を算定すると約〇・六〇ルーブルである。

此の價格を基準とすればパン購入費月額は 33×0.56 即ち二一・五ルーブルであつて、残額である二二・五ルーブルはパン以外の商品の購入費と成つた譯である。家賃賃貸料と光熱費の數字は英露の一人當床面積の割合(一二平方米と五平方米)に基いて居り、大體正鵠を得て居るらしい。併し他の評價數字は過小評價に陥つて居る様である。例へば九〇往復に要する交通費を計算するに當つて片道に付き一〇コベツクの割合に據つて九〇回分を算出したが、英國では交通費は片道分は最低一ベニイ以上であるからして、九〇回分の平均交通費は(都市労働者の支出する)約一〇志

に達する譯である。次に工場食費を一回に付六ペンスと見積つてあるが、此の數字は正確に近いものであらう。パンに付ては、ボラニイ教授は英國に於ける一疋當價格を二片、即ち四封度パン當り五・四五片と計算した。英國では小麦パンの時價は四封度パンに付て八片であつた。若し英國人がライ麦パン又は黒パンを欲するならば小麦パンよりも高い代價を支拂はねばならない。併しライ麦パン又は黒パンの風味は多數人の嗜好に投じ、且つその營養價も小麦パンと同一であるからして、比較の便を圖る爲には、此等三種のパンの價格を劃一に定める必要があらう。

「公開市場」に於てパン以外の食糧と工業品とを購入する爲に(當時)支出された金額はボラニイ教授の計算に據れば五〇ルーブル、筆者の計算に據れば七三・五ルーブルである。一九三四年度の公開市場に於ける市價は割高であつて、ボラニイ教授はルーブルの購買力を僅か二・四片、即ち一〇〇ルーブルを一磅に等しいと計算した。此の割合は検討を必要とする。

二二、一九三三年度國民所得の修正評價(消費財)

本項で述べる計算數字の中で一九三三四年又は一九三五年初頭の露西亞食糧價格はニツカボツカア「赤露經濟と白露福利(Knickerbocker's Rote Wirtschaft und Weisser Wohlstand)に據つて居る。英露の工業品小賣價格は倫敦、貿易局E・C・R・カーン氏(E. C. R. Kahn of the Department of Overseas Trade, London)の作成した未公表の記事に據つて居り、英國の食糧價格と食糧消費高とはサア・ジョン・オア「食糧・保健・所得」(Sir John Oa's Food, Health and Income)

に據り、露西亞に於ける同種の數字は既掲の家計調査結果に據るものである。

一九三三年度英露に於ける食料費の比較(三五・ニオンスは一疋とす)

	露西亞の成人一人 當消費月額(疋)	食料費 (ルーブル)	食料費 (ペンス)	英國の一人當消費 額(適當オンス)	食料費 (ペンス)	食料費 (ルーブル)
豚肉……	一・六	二〇・八	六八・〇	五・八	六・六	二・一五
ベイコン……	〇・六	一八・〇	一六・六	七・〇	五・五	五・九八
羊肉……	一・六	一九・二	四〇・九	八・四	六・一	二・八六
牛肉……	三・二	三八・四	七〇・八	一七・〇	一〇・七	五・八〇
バター……	〇・八	二四・〇	一九・五	七・八	五・四	六・六四
卵(個數)……	七・〇	四・九	一〇・四	二・九	四・三	二・〇三
砂糖……	一・七	一〇・二	九・一	一七・八	二・七	三・〇四
馬鈴薯……	一・三	一二・三	二四・六	六四・〇	三・六	一・八二
茶……	〇・〇三	二・一	一・四	二・八	二・八	五・五八
チーゾ……	〇・八	一二・八	二〇・三	三・二	二・三	一・四五
牛乳(リットル)	六・八	一三・六	三七・〇	一・六	八・七	三・二〇
計……	……	一七六・三	三一八・六	……	五九・七	四〇・五五

右表に従ふと、食料購入に關しては、露西亞の支出額を英國相場に換算すると、一ルーブルは一・八一ペンスであり、英國の支出額を露西亞相場に換算すると一ルーブルは一・四七ペンスである。(フィッシャアの法則に従つて)此等

の二種數字の幾何平均を求めると、公開市場に於けるルーブルの購買力は僅か一・六三ペンスに過ぎない。農業に従事せざる賃労働者と俸給生活者並に手間職人の數は二〇・五百万人で、一人當の扶養者數は平均一・二〇人であつた(第一八項参照)。パン以外の食料の消費月額は英貨で表示すれば一八・八ペンスであつた(第四項参照)。都市に於ける高い食料消費額に關する既出の資料を念頭に置かならば、工業人口一人當の都市消費月額を二四ペンスと計算し得よう。此の消費額を基準とすれば労働者一人當月額は一九志一片と成り、此の中で一二志六片は工場食費として消費され、残額の六志七片に相當する食料を公開市場に於て求めるには四八・五ルーブルを支出せねばならぬ譯である。

次表は工業品價格の比較であり、價格は前記カアン氏が一九二四年に都市及び農村の「オウブン・ショップ」(組合加入労働者と非組合加入労働者とを使用する工場)と協同組合に於て調査したものである。

次表を一見すれば瞭かとなる様にソ聯邦に於ける物價の構成状態は英國に於けるそれとは全く異なるものであつて例を擧げて見ると大はバラライカに於てはルーブルの英貨換價は一七・八ペンス、綿製海水着では一五ペンス、小は香水の一ペンス、寫眞機の〇・九ペンス及び毛絲ジャケットの〇・七ペンスの如くである。(以上の價格不同を一見すると政府が水泳とバラライカの彈奏を好適な娛樂として奨励する方針が此等數字に反映して居るものと解して差支ないであらうか。恐らくそれは餘りに獨斷的な斷定であらう)。以上相互に縣隔の甚だしい各種ルーブル等價の幾何平均を計算して見るとルーブルは三・四八ペンス、即ち六九ルーブルの購買力は一磅のそれに等しい事と成る。

工業製品價格の比較

品目	ルーブル價格	英貨換算價格
男子服	八七	五〇
長靴	一〇〇	一五〇
庇附帽子	二三	一〇〇
男兒用外套	七五	二〇〇
上靴(ゲートル)	一五	二〇〇
毛絲ジャケット(カーデガン)	六八	四〇〇
下着	八	四〇〇
海水着	一・六〇	二〇〇
ネクタイ	二・五〇	二〇〇
蒲團	四七	一〇〇
燈油(リットル當價格)	〇・四七	二・五
電氣アイロン	三〇	七〇〇
電球	一・二八	一〇〇
鉛筆(ダース當價格)	二・二八	一〇〇
小計算尺	一三・一〇	七〇〇
煮物鍋	一〇	一〇〇
小形旅行靴	八七	七〇〇

寫真機	一九三	一五〇
玩具電車	七八	二五〇
玩具鐵砲	三四〇	三〇〇
携帶用蓄音機	一七七	二五〇
バラライカ	二〇・三〇	三〇〇
葉書	〇・三〇	一〇〇
石鹼 (一個當價格)	五	〇
齒ブラシ	一・五〇	〇
棒紅	二・五〇	〇
安全ピン (二ダース當價格)	九乃至〇・三六	〇
香水	〇・三六	〇
	六・二三	六

サア・ウォルター・シトリン (Sir Walter Citrine) は一九三五年に相當廣範圍に亙つて物價調査を行つた。その調査結果は次表の如くである。

品目	價 (ループル)	英貨換算額片	ループル等價 (パンス)
男子用革靴	一七・四五	〇	二・四
フェルト帽 (下等品)	三五・五〇	五	一・七

ネクター	七二	〇	一・四
男子用革靴	五〇	〇	二・一
男子用ツック服	三五〇	〇	一・五
男子用冬服	一二五	〇	一・七
男子用防水着	八〇	〇	一・九
フォックス骨組の婦人用洋傘	一二五	〇	一・二
婦人用防水上衣 (稍下等品)	一七〇	〇	一・九
婦人用防水着 (絹物)	五五	〇	二・〇
婦人用上衣	二五	〇	一・五

備考。シトリン「ソビエト露西亞の實相探究」(一九三六年倫敦)に據る。

シトリン氏は右表の數字に付て次の様に説明して居る。

「此等價格の英國に於ける等價を出來得る限り此等と併記する爲に自分は倫敦協同組合、バアカア (Barker)、ボンテイング (Ponting)、セルフリッジ (Selfridges) 等の販賣所と他方ではリュイス (Lewis)、マンチエスタア有限責任販賣所、パーミンガム、リヴァプール等の地方販賣所の定價表を綿密に調査した。上掲のループル價格は自分と妻が注意して照査したものであるからして、極めて正確であると誇り得よう。英露の價格が如何に相違して居るかを示す若干の著しい例を擧げて見ると先づ家具類では、英國で四磅一〇志程度の食器戸棚が四三〇ループルであつた。英國では三磅の値段であらうと自分が値踏みした本箱が二七〇ループルで、飾附のない板材の洋服箆筒には二七〇ループルの正札が附いてゐた。背のない長椅子は一五〇ループルで、背附の長椅子は三五〇ループルであつた。以上はどれも

これも造りの粗末な家具であつて、數本の傷のない鋼鐵棒が眞中を通つて居るに過ぎない鐵製寢臺は二六五ルーブル乃至三七五ルーブルであつた。

次にシトリン氏はモストルグ販賣店 (Mostorg store) の定價表を調査して次表に示す様な資料を得た。

品目	價格 (ルーブル)	英貨換算額	ルーブル等價 (ペンス)
男子用ツボン吊り	三・二五	九片	一・九
トランブ	七・四五	九片	一・九
洋服ブラシ	二・五	二片	三・〇
箱入安全剃刀	六・三五	一志	〇・九
男子用ネクタイ	六・二五	一志	一・九
毛髮ブラシ	四・二〇	六片	一・一
懐中鏡	二・一〇	一志	〇・九
櫛	一・九〇	一志	〇・六
婦人用ハンドバック	二・八〇	三片	一・三
織維製旅行靴	四・三〇	二志	一・〇
懐中櫛	二・八〇	五志	二・一
	一・二四	三片	二・九

以上の二表に掲げた一切の價格の幾何平均を計算すると、一九三五年度のルーブルの英價換算價は僅か一・六二ペンスである。假令一九三四年から一九三五年に掛けてルーブルの價格が高騰したとしても此のルーブル購買力は前掲

の數字に比較すれば餘りに低下して居る。

次に、一九三四年には協同組合の取引額が頗る多い (總額の四一% — 統計便覽に據る) 事實を念頭に置く必要がある。レダウエイ氏の説明を次に掲げて見よう。

「全體として見れば工業品に對して支出されたルーブルの換價を三・五ペンスの割合に定めても誤りではない。協同組合では此の割合は四ペンス乃至五ペンスで、公開市場ではもつと低下するものと推定し得よう (ルーブルに付て三・五ペンスを得るならば公開市場相場で英國商品の一揃ひの仕入品を賣るならば必ず多大の収益があるに相違なす)。

次に、サア・ウォルター・シトリンが計算した公開市場に於けるルーブルの購買力二ペンス (一九三四—三五年の下落を參照したものである) とレダウエイ氏の計算した協同組合に於ける購買力三・〇四ペンスとの間に加重平均を求めらば、ルーブル當三・〇四ペンスの普通平均が得られる。従つて先に算出した三・四八ペンスの平均は相當に正確なものである。

扱て次にボラニイ教授の再評價結果を一瞥して見よう。先づ、賃銀平均月額一四九・三ルーブルに労働者が現金で受取つた社會奉仕手當額 (約三十五億ルーブル、即ち一人當平均月額一二・五ルーブル) を加算し、次に此の月額から七ルーブルの公債應募額を控除せねばならぬ。

その結果を見ると、労働者一人當平均支出月額は一五五ルーブルであつて、その英貨換價は次表の如くである (内譯を擧げなかつた差額の中で、半ばは食費、他の半ばは工業品の購入に宛てたものと假定する)。

支出内訳	ルーブル	志換算額
家屋賃貸料	五・〇	一一〇
交通費	九・〇	一〇〇
工場食費	一八・〇	一二六
パン代	二一・五	一二二
燃料費	八・〇	四〇
パン代を除く食費	四八・五	六七 <small>(ルーブルを一・三ペンスとす)</small>
工業用品	四五・〇	一三一 <small>(ルーブルを三・四ペンスとす)</small>
計	一五五・〇	七〇四

此の計算結果はボラニイ教授の得た五二志六片よりも本質的にはヨリ多くの正確度を有して居る。同教授の指摘する如く、一九一三年度に於けるルーブルの内在購買力と對外購買力とが均衡を保つてゐたと假定するならば大戦前の工業賃銀二五・四ルーブルを五三志六片(尤も同教授の評價額は此れよりも低い)と再評價し得よう。同教授の説に據れば同教授の計算結果(即ち、一九三四年度の露西亞賃銀は同年の英國物價を以て表示すれば月額五二志六片に等しい)は露西亞に於ける實質賃銀が一九三四年と一九一三年には殆んど同額である事實を裏書するものである。併し同教授は一九一三—三四年には英國の小賣物價が三〇%乃至五〇%(指數の加重方法が異なる爲に斯く二種の割合が得られる)増加した事實を忘却して居る。蓋し、同教授の計算結果が正確だとするならば、露西亞の都市賃銀は一九一三年に比較して一九三四年には三〇%減少した事となり、然かも斯かる事實は到底有り得ないのである。

一九三四年度の賃労働者と俸給生活者の數は二三、二二六、〇〇〇人である(統計便覽に據る)。此の數から四百五十萬人の農業労働者を控除し、百五十萬人(ボラニイ教授の引用した數字である)の自前の家内工業者、賃労働者に生活條件が類似して居ると見られるアルテル加入者を加算するならば、賃労働者數は二千四十七萬人となり、その一人當消費額は一九三三年度に於て一、八六〇ルーブル、即ち四二・二磅である。消費總額は三百八十一億ルーブル、即ち八億六千五百萬磅である。

工業労働者の家屋賃貸料總額は一億四千七百萬磅、即ち一人當七・二磅である。農業労働者の住宅は頗る貧弱であるからして一家族當二磅として見積るとその賃貸料總額は約五千萬磅と成る。

全國の食糧消費額を英國小賣相場を以て表示すると一人當八・四磅、即ち總額一、四九五萬磅と成る。前回と同様の計算方法を用ひると、都市住民の消費額中約三八五萬磅は食糧消費額で、農民の食糧消費額は一、一一〇百萬磅となる。前掲の統計表に基いて計算すると都市食糧消費額は二百十六億ルーブルである。併し農民が多額の収益税を賦課され且つ市場統制が嚴重である關係上、都市人の支出する食費の一部分が農民の所得と成るに過ぎないのである。農民の現金所得額を知るには農村地方の小賣業者の賣上高を見ればよいが、此の方法に據ると一九三三年度の賣上高は百四十一億ルーブルに達してゐる(ソ聯邦便覽「内國貿易」に據る。一九三三年以降の年に付ては數字が缺けて居る)。

一九三四年には小賣業者の賣上高は五百四十二億ルーブル(統計便覽に據る。數字は都市農村別になつて居らない)で、此の額に賃銀より支出した公債應募額十五億ルーブル(ボラニイ教授の數字)と、家屋賃貸料及び交通費その他の約二十億ルーブルとを加算すると總額五百七十七億ルーブルと成る。賃銀總額は四百十六億ルーブル(統計便覽に據る)で、農業労働者の賃銀を除くと二百七十四億ルーブルである(農業労働者の一人當平均賃銀年額を一、〇〇〇ルー

ブルと假定した)。此の數字に自前の家内工業者の所得額を加算すると、都市住民の支出総額は約三百九十六億ルーブル(公債應募額十五億ルーブルを包含する)と成り、前掲の三百九十六億ルーブルよりも多く成つて居る。

由つて農民(農業賃労働者を含む)の小賣品購買額は五百六十二億—三百八十一億乃至は百八十一億ルーブルとなる。但し此等の購買額には都市に於ける農民の購買額が含まれて居る模様である、それは一九三四年度の農村地方小賣品購買額が百五十六億ルーブルと算定されたからである(商業會議所の引用せる數字である)。

以上の購買額をルーブルは三・四八ペンスとして英貨に換算すると二億六千三百萬磅となる。

ツヴェギントツオフ氏は農村所得問題に關する若干の正確な資料を筆者に提供した。氏が一九三四年度の生産原價と小賣價格との比較を試みた結果は次表の通りである。同表を見ると生産者が小賣價格の僅か一〇%乃至二〇%を收得するに過ぎない事情が瞭かと成る。

一三、投資財生産額の再評價

次には一九三四年の政府投資額二百六十四億ルーブルの數字を吟味して見よう。

註。統計便覽に據ると政府投資額は二百十五億ルーブルであるが、此の數字には諸産業が収益を獨占する目的を以つて投資した四十九億ルーブルを加へねばならぬ。

ボラニイ教授は前記投資額を七億磅と見積つて居る。同教授は製造數量の判明して居る重工業製品、即ち石炭、石

油、鐵、鋼鐵、電力、銅、亞鉛、トラクタア、自動車、貨物自動車、純生産額を英貨を用ひて評價して右の數字を得たのである。露西亞の資料に據ると、以上の各工業製品のルーブル價額は重工業總製造額の三六%に達して居る(ボラニイ教授の引用せる數字である)。その英貨換算額は二億五千三百萬磅である、従つて同教授は投資總額を七億磅と評價した譯である。

以上よりもヨリ一層詳細な計算を行つても殆んど同一の結果が得られる。前掲の種類別工業品の一部製造額は消費され又は輸出される。従つて數字は甚しく重複してゐる譯である。計算方法は次の如くである。ソ聯邦に於て製造高(此の製造高から輸出額を控除し輸入額を加算せねばならぬ)の判明して居る貨物は左記の通りであつて、孰れも純然たる投資財又は建築財である(ソ聯邦便覽第一四六頁以下参照)。

セメント。挽材。銅。鋼鐵。トラクタア。貨物自動車。機關車。貨車。變壓器

一九二九年度の北米合衆國に於ける投資總額は二百二十七億五千萬弗に達した(註)。上記九種工業品の内國消費額は五十三億五千萬弗、即ち投資總額の二三・五%に達した。此等工業品が最も代表的なものである點に鑑みると、露西亞に於ても此等六種の工業品の消費額が投資總額の二三・五%を占めるものと推定して差支ないであらう。一九三四年と一九二七—八年分の計算結果は次表に示す通りである。

註。全國經濟調査局刊行サイモン・クツネット博士覺書「大資本の組成」—"Gross Capital Formation", Memorandum by Dr. Simon Kuznets, published by National Bureau of Economic Research, New York, 1934.

品目	米國(一九二九年)(註一)		ソ聯邦(一九三四年)		ソ聯邦(一九二七—八年)	
	數量	價額(百萬弗)	數量	價額(百萬弗)	數量	價額(百萬弗)
セメント(百萬噸).....	二八・九五	二七一	三・五六	三三	一八	
木材(百萬立方米).....	七五・一	一、〇〇七	一八・九	二五三	一三七	
銅(千噸).....	一、四六〇	五八四	六四・八	二六	二六	
鋼(百萬噸).....	五七・三四	二、二九〇	九・五六	三八二	一七〇	
機關車(臺數)(註二).....	三三二	一、三四五	四三	一五	
貨車(臺數)(註二).....	二六二	三二、四〇〇	四八	一六	
トラクタア(百臺).....	五七五	二六二	九四・四	六九	三	
貨物自動車(百臺).....	七二・五	八〇	一	
變壓器(百キロワット).....	七六	六〇〇	二、八七四	五	一	
計.....	五、三四八	九三九	三八七	

註一。全國經濟調査局編「實業界現況」及び覺書に據る。
 註二。一九三〇年度生産センサスに掲げてある英國物價を弗に換算せるもの。

右表を基準とすると、一九二四年度の露西亞に於ける投資額は四十億弗、即ち八億二千萬磅と見積つて差支ない。次に一九二九—三四年の物價下落の結果として、トラクタア、その他の特定投資財が米國よりも英國に於て高價で、反對に、建物價額が後者に於て比較的低廉である事實を考慮せねばならぬ。従つて、減少割合を一割と見積ると七億三千八百萬磅と成り、一九二七—八年分の數字は三億五百萬磅と成る $(738 \times \frac{387}{989})$ 。

即ち磅當のルーブル購買力は投資財の場合には三五・七となり、従つて小賣工業品の場合に於ける磅當六九ルーブル及び公開市場に於ける小賣食料の磅當一四七ルーブルと顯著な對照をなすものである。

斯かる著しい差額の生ずる所以は政府の人爲的操作に據るものであつて、その主なる手段は營業收益税である。一九三四年度豫算に於ては營業收益税と公企業收益を財源とする國庫收入は四百三十億ルーブルの巨額に達した(M・ツフエギントツオフ氏が筆者に提供した官廳統計分析結果に據る)。重工業が負擔する此等の營業收益税の割合は比較的尠い(政策が然らしめるものである)、従つて重工業の購買力平價割合(一磅當二九ルーブル)は露西亞に於ける正確な生産費を相當的確に表示するものと見て差支ない。

一九三四年度の政府事業費(先に計算した三十五億ルーブルの現金扶助料見積額を除く)の内譯は中央と地方の事業費が七十六億ルーブル、軍事費は五十億ルーブル、行政費二十億ルーブル、合計百四十六億ルーブルに達した(前掲ツフエギントツオフ氏の分析結果に據る)。此等費目の中で軍需資材と成つた工業製品の如きは重工業製品と重複して居るが、併し此の重複する額は精々二十億ルーブルに過ぎないであらう。従つて政府事業費を百三十億ルーブルと見積り、二五ルーブルを磅等價として計算すれば五二〇百萬磅と見積り得る譯である。磅等價を二五ルーブルとした理由は後節に述べる事とする。

但し減價、廢棄、修繕の見積價額を以上の額から控除せねばならない。一九三四年度の資本總額を一九三三年度時價を以て表示すると一一二十億ルーブルである(ソ聯邦便覽第一四六頁以下参照)。電化事業、運輸業、建物、農業に投資した資本額の減價割合は五%以下であらう、併し最新工業機械の平均減價割合は一〇%前後である。以上を綜合すると減價額は資本の代替價額の八%以下(年額八十八億ルーブル即ち投資總額の丁度三分の一)に見積り得ない事と成る。政府の統計數字(一九三三年と一九三四年の平均)を見るも年投資額は二百三十億ルーブルで、資本の純増加

額は一九三三年度の時價に據つて表示すれば)百三十四億ルーブルであつて、如上の評價額は確證されてゐる。

一四、國民所得總額の再評價

以上の分析を試みた結果、次に一九三三年度の國民所得總額を英貨を用ひて要約し得る譯である。要約せる結果は次表に掲げる如くである。

	十億ルーブル	百萬磅
農村消費額	：	一、一一〇
食糧	：	二六三
その他	一八・一	五〇
農村家屋賃料(推計額)	：	三八五
都市消費額	：	四八〇
食糧	二一・六	七三八
その他	一六・五	五二〇
投資總額	二六・四	：
政府事業	一三・〇	：

一九三三年度總額	三、五四六
一九三四年度物價を以て表示せる	二、九二三
一九二七―二八年度總額	二、八八六
一九一三年度總額	：

人口一人當實收所得額(一九三三―三四年度英國價格に據る)

一九一三年	二一・〇磅
一九二七―八年	一九・四々
一九三四年	二一・一々

減價は以上掲げた一切の數字からは控除されてゐない。減價は一九三三―三四年に付ては八十八億ルーブル(二億四千七百萬磅)、一九一三年及び一九二八年に付ては八千三百萬磅と評價された。此等の減價を上掲の數字から控除すると次の結果が得られる。

年	次	所得總額(百萬磅)	一人當所得額(磅)
一九一三	：	二、八〇三	二〇・一
一九二八	：	二、八四〇	一八・八
一九三四	：	三、二九九	一九・六

従つて第一次五ヶ年計畫に絶大の努力を傾倒せる後に於ては純所得額は一人當四%増加した、然かも此の増加額は一九一三年度の増加額よりも23%減少してゐる。それは、後述する如く、農業生産力が激減した爲に折角擴充された工業生産力が相殺されたからである。

消費財と消費事業の生産額(食糧と家屋賃貸料を含まぬが政府事業を含む)は一九二八年には七億六千八百萬磅であつたが一九三四年には十一億一千六百萬磅(四五%の増加)に増加した。主要消費財の生産高を用ひるならば此の數字を大體に於て確證し得よう。

一五、消費財生産高に關する確證資料

九種の商品と勞務に關しては數量資料が得られる、その數字は次表に掲げる通りである(ソ聯邦便覽第一四六頁以下参照)。表の各數字はその英貨換算價に從つて加重されてある(生産センサス平均價額)。

増減傾向の著しい點に着眼すると此の調査材料は頗る有用である。即ち、次表は一九二八年度に於ける非食用商品の消費額(英貨表示)の三七%を表示する標本資料を包含して居り、各種商品の生産高は多種多様の増減傾向を辿つて居る。農村の主たる購入品である織物類の供給高は頗る減少してゐる、それは恐らく露西亞が原料を輸入し得ない(乃至は輸入を欲せざる)爲であると解し得よう。反之、その外の特品商品、例へば靴、石鹼、新聞等は一九二八年には供給高は微々たるものであつたがその後激増して居る。

品 目	一九二七—八年度生産高	見 積 價 額(百萬磅)	自一九二七年 至一九三四年 生産高増減割合 (%)
石 鹼(千噸).....	一九六・〇	七・五	增 一一・〇
綿 製 品(百萬メートル).....	二、七九八・〇	六二・二	減 三
羊毛製品(百萬メートル).....	九八・〇	三七・二	〃 二五
郵便小包(百萬個).....	二、〇一七・〇	一一・六	增 二二三
リンネル類(百萬平方米).....	一七四・〇	八・八	減 一〇
襪 寸(百萬個).....	五・八	一六・六	增 五七
靴 (百萬足).....	二四・三七	一一・二	〃 一八五
グートル(百萬足).....	三七・四六	三・七	〃 七四
日刊新聞(百萬部).....	八・八	一一・五	〃 三一五
計	一七二・三	(加重平均) 增 五六

一六、ルーブル購買力に對する課税の影響

一九二八年と一九三四年の種別商品に對するルーブルの購買力(英貨表示)は既に掲げた如くであるが、一磅等價

ルーブルを用ひて此の購買力を表示すると、

	一九二八年	一九三四年
食糧(公開市場に於ける)(註).....	一〇・七	一四七・〇
消費財(小賣製造品).....	一八・五	六九・〇
投資財.....	二四・〇	三五・七

註。一九二八年度數字は一九一三年の小賣物價數字を基礎とし露西亞及び英國の物價變動資料を用ひて算出したものである。一九三四年の數字は公開市場に於ける賣上高のみを表示する、但し次表に於ては非公開市場に於ける賣上高をも包含して居る。

一九二八―三四年には露西亞に於ける賃銀平均年額は七〇四ルーブルから一、七九〇ルーブルに激増した(統計便覽に據る)。従つて生産單位當貨幣生産費の増減に基くならば(此處では労働者一人當生産數量の増減を度外視しよう)特殊の課税が缺如して居る場合には、購買力の固定してゐる英貨を以て表示するルーブル購買力は六〇%減退せねばならぬ筈である。然るに投資財に對するルーブル購買力が(英貨表示に於て)二〇%も減少しなかつた事實に鑑みれば露西亞の此等産業に於ける労働生産力が一九二八―三四年間に約六〇%増加したものと斷定し得るのである。

他方に於て、以上とは別の分野に於けるルーブル價の異常な下落は必ずしも労働生産力の減退を表示するものではなく、反對に間接税(特に營業收益税)の激増を表示する。一九二八年度の間接税總額は三十二億五千萬ルーブルであつた。此の額を各部門に割當てる事は不可能である、併し小賣業者の食糧賣上高が三十二億ルーブル(統計便覽に據る)であつて、農民の獲得しか農産物卸賣價格(プロコボイチ教授の使用した資料)が一九一三年度に比較して二

五%増加し、他方、食糧小賣價格が九〇%増加した(モスコイ景氣研究所報告に據る)事實に鑑みるならば、小賣食糧賣上高の負擔した間接税總額は約八億ルーブルであつたと推定し得る。殘餘の二十四億五千萬ルーブルは惟ふにその他の消費財及び消費事業に賦課されたものであらう。

一九三四年の収益税及び國營事業の純益を財源とする國庫收入は四百三十億ルーブルに達した。此の額を純粹の収益税の財源に從つて分析すると次の如くである(ツフェギントツオフ氏の分析結果に據る)。

食糧.....	一八・一	十億ルーブル
重工業と木材.....	四・五	〃
輕工業.....	三・九	〃
商業.....	八・四	〃
計.....	三四・九	〃

殘餘の八十億ルーブルは各部門別に表示し得ない性質のものである。商業施設の負擔する収益税を附加すると、一九三四年に都市住民が支出した食糧購買額(推計額)二百十六億ルーブルの殆んど全額は食糧消費高に賦課された間接税と推定される。食糧を除く商品の賣上高は三百二十六億ルーブルに達した。割當てられない間接税の大部分が此等の非食糧商品に賦課されたと假定すれば、關係産業の収益に賦課される収益税又は國家徵收金は約百六十億ルーブル、即ち生産總額の約半ばを占めてゐる。

重工業に對しては約六十億ルーブルが賦課された。

次表は課税の影響を排除せる後のルーブル購買力に關する計算結果であつて、細部に亙る説明を省略して大體の規

模を表示するものに過ぎない。既掲の各表は特定の公開市場を専ら対象としたが、次表に掲げる数字は賣買された一切の商品を表示して居る。

一磅當ルーブル價は食料の場合には依然として下落して居る、換言すれば、特定數量の食糧の代償として農民が收得するルーブル收入は減少した。因に、農産物の抄からざる部分が實物徴收の形式に據り徴收され乃至は低價格に據り買上げられて居る事實を念頭に置く必要がある。勞働生産費の減少は重工業に於ける程は目立つて居らぬが併し消費財生産部門に於ても相當であつたと解して差支ないであらう。政府事業の生産額を評價するに當つては一磅を二五ルーブルとして算定した、それは此れが一般消費財の生産費(課税を除く)の等價であり、且つ又、ルーブルが金本位に復歸した一九三五年に用ひられた爲替相場でもあつたからである。

	一九二八年		一九三四年	
	小賣食糧 賣上高	消費財 投資財	小賣食糧 賣上高	消費財 投資財
賣上高 (十億ルーブル)	三・二	一一・〇	二・二	三三・三
課税を除く賣上高 ()	二・四	一〇・五	三	二〇・四
賣上高 (百萬磅)	(註二) 二八五	(註三) 六四九	(註四) 四五〇	六六六
磅當ルーブル價	八・四	一六・二	六・七	二五・五
		二〇・六		二七・六

註一。統計便覽に掲載の食糧賣上高を含まざる小賣々上高。

註二。課税を參酌するに先立つてルーブルの磅等價を一一・二ルーブルとした。此の等價は前掲の二種確定數字の平均である。

註三。物價騰貴割合を一〇〇%として一九一三年度資料に基き計算す。

註四。食糧及び家屋賃貸料を除いた消費財とす。此の消費財が一九二八年以來殆んど増加しなかつた現象は現在では商品生産高の大部分が本表に掲載せぬ政府事業の形式に據つて供給されて居る事實を表示するものであらう。

一七、國民所得に關する露西亞官廳統計の檢討

一九二七―八年と一九三四年に關する數字は次表の如くである(一九二七―八年の數字は調査局報告第三卷に據り且つ一九二六―七年を基準年次として修正せるもので、一九三四年の數字はソ聯邦便覽に據る)。

	一九二六―七年物價を以て表示せる所得額(十億ルーブル)	
	一九二七―八年	一九三四年
工業	六・九	二六・六
建築業	〇・七	六・五
運輸業	一・六	三・〇
その他一切の非農業所得	四・六	九・七

工業に於ては生産額は二八五%増加し、工業、建築業及び運輸業を合した生産額は二九二%増加した。此等の増加割合を證明する事は不可能である。國民所得の中で最も増加傾向の顯著な投資財生産部門すらも一三二%の増加割合を示したに過ぎない、消費財の増加割合に至つては更に一層尠なかつた。

露西亞の統計學者が自國の生産力を過大に表示する目的を以て統計數字を故意に歪曲したと非難するは誤つて居る蓋し若し彼等が斯く過大表示を目的としたとするならば彼等は一九二九—三二年の農業生産高減少を表示する統計數字を改竄し又は抹殺したに相違ないからである、然るに彼等が少しも斯かる措置を講じなかつた事は既述の通りである。惟ふに露西亞の事情に於ては十一年前の物價を基準とする指數の利用は、假令それが農業生産高の測定には適切妥當であらうとも、工業生産高の増減を測定する爲には極めて不適當であるとの斷定を下さざるを得ないのである。

一八、人口と經濟資源

本觀察を終へるに當つて露西亞の都市人口と農村人口とを一瞥して見よう。本書に於て此れ迄使用して來た價額の尺度を用ひて輸出品及びその他の生産物を包含する農業生産高を表示すると次表に掲げる通りである。

年	年産額（一九三三年度購買力を基準とす）百萬磅	
	農業所得	その他の所得
一九一三年	一、七五〇	一、〇五三
一九二七年	(註) 一、七三〇	一、一一〇
一九三四年	一、四九五	一、六〇四

註。食料消費額と外國物價水準に據り評價した輸出額の合計は約五千萬磅である。

露西亞の職業統計と人口統計とは頗る難物である。それは一九二六年以降には完全なセンサスが實施されず、加ふるに最近の國民職業分類に關する統計に於ては農民と賃職人、労働者とその從屬者が夫々區別されてゐないからである。本表の數字はマークス(Marks)が、國際労働局月報第三十三卷第三五六頁に初めて公表したものである(此の資料はソ聯邦便覽にも掲載された)。此の資料は労働者とその從屬者を一括して示して居る。

	一九一三年	一九二八年	一九三四年
工業賃労働者及び給料生活者	一七、三〇〇	二四、一二四	四一、七五一
農業賃労働者及び給料生活者	六、〇〇〇	二、二一九	五、三六七
農民及び賃職人	...	四、四〇六	七七、〇三七
協同組合員及びアルテル加入者	...	一一一、一三一	三七、九〇二
非組合加入農民及び賃職人	九〇、七〇〇	五、六一八	一四九
富	一七、一〇〇	一、一八三	二五
その他のブルジョワ	五、〇〇〇	三、六七一	五、七六九
兵士、學生、恩給受領者	三、二〇〇	一五二、三五二	一六八、〇〇〇
計	一三九、三〇〇

一九二六年度センサス結果に據ると、總人口の中で五七・四％は有業者で、有業人口の八五％は農業従事者である(統計便覽に據る)。此等の割合を一九二八年度人口に適用すると、有業労働人口は八千七百五十萬人、その中七千四百四十萬人は農業労働者である。官廳統計に據ると殘餘の一千三百十萬人の中で賃労働者及び給料生活者は九百六十

萬人（一九三六年獨逸國統計年鑑第三六頁に據る）、軍需工業労働者は六十萬人である、従つて非組合加入の賃職人と商人の数は二百九十萬人と見て差支ない。ボラニイ教授の引用した數字に據ると非組合加入の賃職人とアルテル加入者——獨立營業は現在禁止されてゐる——の數は一九三四年には百六十萬人に減少した。

從屬者の數を加算すると賃職人と商人の一九二八年度に於ける數は五百萬人であつたに相違ない。即ち、協同農場組織は當時漸くその緒に就いた、従つて「協同組合員及びアルテル加入者」の大半は賃職人及びその家族であつたからである。此の人口を四百萬人とし、「ブルジョワ」人口を百萬人とすれば合せて前掲の五百萬人となる譯である。

一九一三年には「ブルジョワ」人口のみで五百萬人に達してゐた、次に同年の賃職人、商人及び非組合加入雇主の數も一九二八年度に比較して殆んど二倍に達してゐたものと推定される。一九一三年度の此等の數は五百萬人、從屬者を合して八百二十五萬人と推計される。此の數字を基準とすれば有業人口——主として一九一三年分であるが他の年に適用しても大體正確である——の内譯を表示する統計表を作成し得る。

商 工 業	百 萬 人		
	一九一三年	一九二八年	一九三四年
賃労働者及び給料生活者	(註)八・二五	九・六	一九・〇
賃職人、商人、その他	五・〇〇	二・九	一・五
軍需工業労働者	〇・六〇	〇・六	〇・六
計	一三・八五	一三・一	二一・一

農 業		百 萬 人		
賃労働者(註一)	農民及び労働に従事する農民家族(註二)	一九一三年	一九二八年	一九三四年
賃労働者(註一)	三・〇	二・〇	四・二五
農民及び労働に従事する農民家族(註二)	六四・二	七二・四	六九・一〇
計	六七・二	七四・四	七三・三五

註一。統計便覽に據る。

註二。一九三六年獨逸國統計年鑑に據る。

労働者に對する從屬者の割合は農村よりも都市に於て高い様である。併し一九二六年度センサスに於ける農業有業人口七一、七三五、〇〇〇人の中で無慮三五、五六五、〇〇〇人は女子であつた（一九三六年獨逸國統計年鑑に據る）。此の數字を検して見ると、ソ聯邦は農家の一切の女子家族員を農業有業者として計上する便法を用ひたらしい（此の方法は獨逸及佛蘭西の國勢調査とその他多數の歐羅巴諸國で利用されてゐる、但し北米合衆國、加奈陀又は英國では用ひられない）。農家の女子家族員が特定時期に農事作業に従事する事は敢て説明する迄も無い、併し彼等は四六時中農事に勵んで居る譯ではなく、従つて國際比較を試みる爲又は農業及び工業の一人當生産力の相互比較を試みる爲には女子有業者を除外すべきである。筆者の推計に據れば女子有業者は前表に掲げた「農民及び労働に従事する農民家族」の丁度半ばを占めて居る様である。

此の推計を基礎として一人當生産價格を示すと次表の如くである。

	一九一三年	一九二八年	一九三四年
農業			
有業人口(百萬人)	三四・一	三八・二	三九・八
一人當生産價額(磅)	五一・五	四五・三	三七・五
商工業			
有業人口(百萬人)	一三・八五	一三・一	二一・一
一人當生産價額(磅)	七六・一	八四・八	八五・五
計			
有業人口(百萬人)	四七・九五	五一・三	六〇・九
一人當生産價額(磅)	五八・五	五五・五	五一・〇

一九二八―三四年には一人當生産高は農業に於ては減少したが併し工業に於ては文字通り固定して居る。有業者一人當所得額は八%減少した、然るに人口一人當所得額は四%の増加を示してゐる。

次に總人口に對する有業人口の割合は著しく増加した。

一九二八―三四年の工業所得額が左程増加しなかつた原因は新労働者が非經濟的な速度を以て(純然たる工業的地から見ると然りとす)工業界に雪崩込んだ現象に胚胎してゐるものと解し得よう。

間接税を包含し減價を除外した一九三四年の英國内國所得額(コウリン・クラアク「國民所得と國民支出」第九四頁、第二〇八頁、第二三八頁参照)は四、〇三三萬磅で、その内譯は次の通りである。

	有業人口 (百萬人)	純所得額 (百萬磅)	一人當所得額 (磅)
農業	〇・九六	一三〇	一三五
その他の産業	一八・一〇	三、九〇三	二一六
計	一九・〇六	四、〇三三	二一一

有業者の一人當内國所得額は一九三四年には一九二四年に比較して一五%増加し、一九三四―三七年には又々九%増加した。

露西亞の數字を検討するに當つては以上の期間に於て労働時間が短縮された事實を念頭に置かねばならない、尤も此の時間短縮は休日の減少せるために相當に補はれてゐる。年當平均労働日數は一九一三年には二五七・四日で、一九三六年には二六〇・〇日に増加した。反之、一日當平均労働時數は九・九二から七・〇三に減少した。工業労働者の年當平均労働時數は一九一三年には二、五五四、一九二八年には一、九四一、一九三四年には一、八九三であつた。一九三四年の労働時數を基準とすれば、商工業労働者一人當平均生産價額は次の如くである。

年	次	年産額 (磅)
一九一三	五六・五
一九二八	八二・八
一九三四	八五・五

此の表に従ふと、工業の發展速度は一九一三—二八年間に於ける場合に比較して一九二八—三四年に於てヨリ緩慢であつた。不確實な推定ではあるが此の事實に據るならば前掲平均労働時數の正確性を疑問視せざるを得ない。

一人當農業所得額が一九二八年以降に於て減少した現象の主なる原因は一九三〇—三三年に家畜の屠殺頭數が莫大なものであつた爲である。併し所得額が一九一三—二八年には減少傾向を辿り續けた事實にも注目するの必要がある。即ち、生産總額は不動であつたにも拘らず労働人口は増加したのである。

此の現象は所謂マルサスの人口論を裏書するものと解される、事實、激増する人口が制限された生活資料を壓迫する現象はまさしく露西亞の實狀に外ならない。即ち、識者が殆んど看過するにも拘らず、露西亞の前古未曾有の人口激増——十年間に無慮二五%の増加——は露西亞に於ける一切の經濟的困難を醸成する坩堝であつた。フエイ教授(Pod. Fay)が喝破した如く「マルサスの亡靈は西洋諸國から追放されたもの、未だに北米の掠奪された農業地帯と東洋の早婚とに呪咀を投げ掛けて居る」。フエイ教授は露西亞もマルサスの呪咀に悩まされてゐると附言すべきであつた、蓋し廣大無邊の荒蕪地と激増する人口とを擁する露西亞こそはかのマルクス辯證法の力を藉るも被除し得ないマルサスの亡靈に憑かれてゐる代表的な國だからである。

換言するならば、露西亞の農村は疑ひもなく過剰人口に悩まされて居る。此の事實は正確な資料を用ひて立證する事が出来る。

一九二八年の露西亞農業生産額(國際労働局月報第二十九卷第三四九頁に掲載の筆者不明の資料に據る)の調査結果は公表されて居る、それで筆者は此の生産額を獲得する爲に投下された労働量(労働者が一人残らず就業したものと假定して)を推計して見た。その結果を見ると、同年の有業人口(農家の婦女を含む)が七千四百萬人であるにも拘らず、此の所要労働量が四千萬人乃至五千萬人の労働者であるとの驚異に價する結論に到達したのである。筆者の推計

に従へば過剰有業人口は二千四百萬人乃至三千二百萬人である。労働者とその従屬者とを合算するならば、露西亞の農村に於ける過剰人口は四千萬人乃至五千萬人と推定しても大過ないであらう。國際労働局月報第三十三卷に掲載の推計數字に據ると、一九一三年の農村過剰人口は三千萬人である、換言すれば有業人口は一千八百萬人であつた。一九一三—二八年に農業有業人口(婦女を含む)は七百二十萬人の増加を示して居る、然るに生産額の増加は微々たるものに過ぎない。従つて前掲の推計と此の推計とは完全に一致した譯である。

經濟學的に「偽装された失業」(Disguised unemployment)とも呼んで然る可き此の失業状態が斯くも尠大なる規模に於て露西亞に存在する事は露西亞の全經濟機構を陰慘なる色調を以て包むものであり、此の事實を念頭に置くならば識者はソ聯政府の經濟政策が失敗した事を徒らに非難するを差控へて然るべきであらう。過般の世界的不況がその最悪の状態に逢着した時期に於てすら全世界の失業せる工業労働者數は二千六百萬人と推計された、即ち前掲の露西亞農村に於ける失業者數よりも尠かつたのである。農村人口の増加が生産額の増加を招來せざる斯かる事情に於ては假令工業労働界に吸引された農民の生産力が過少であるとしても猶農村より工業への人口移動は確かに奨励して然る可きである。ソ聯政府の政策も斯かる人口移動を基調として來た。露西亞の工業人口は一九三四年には四千二百萬人に達した、即ち英國のそれに匹敵したのである(ソ聯邦便覽に據る)。然るに十年前の工業人口は此の數字の半ばを占めるに過ぎなかつたのである。斯くも急激な工業化の速度は多くの觀點より見て常軌を逸して居り且つ非經濟的には相違ないが、然かも斯かる過激な工業中心主義を用ひても猶ほ露西亞農村の驚嘆すべき人口繁殖力が年々歳々此の世に送り出す新人口の壓迫を辛うじて緩和し得るに過ぎず、然かも農村の窮乏と失業とを救済する巨大な事業に染手する事すら不可能であるのだ。

嚴密な意味に解しての經濟界を除けば、極めて乏しい資源を賢明に活用した結果としてソ聯の農村に於て教育は頗

る普及し、農村人の保健状態は著しく改善された。それが證左として一九一四年に二萬人に過ぎなかつた農村醫師の数は一九三七年には八萬七千人に激増し（「ソ聯邦の進歩、一九一七—三七年」英露議會委員會刊行に據る）、學校生徒の數も次表に示す如く増加した。

	一九一四年 (千人)	一九二八—九年 (千人)	一九三六—七年 (千人)
小學校生徒	七、〇三〇	八、八八七	一〇、九七〇
中學校生徒	九一六	三、五一一	一七、〇九三
實業學校生徒	七九	二〇六	七六九
青年學校生徒	：	二、二二六	八、九四二
高等專門學校生徒	一一二	一七八	五五一

以上の數字は政府が教育と保健とに如何に經濟資源を集中して居るかを雄辯に物語つて居る。ソ聯邦の經濟事情が如何に困難であるかを念頭に置くならば此の政策は確かに賢明であると評し得よう。

西洋諸國の經濟機構と政治機構とが目前に迫つて居る人口減退の嵐に脅かされて居る機に際してソ聯邦が何等對應策を講ずる餘地なき程の速度を以て増加する人口の壓迫に苦悶する現象はその規模が餘りに尠大なる爲に多數人が意識して居らない廣大無邊な矛盾せる現象である。一九一三年迄は東歐諸國、帝政露國、バルカン諸國の深刻なる人口壓迫は海外移住に依り多少緩和されてゐた。此等の移住通路を閉鎖して前大戰に勝利を博した英米の爲政家連は自國が斯かる措置を執つた爲に他日如何に莫大なる代償を支拂はねばならぬかを殆んど豫見し得なかつたのである。

一九一三—一九三四年以後の經濟的發展

一九三四年以後の經濟的發展に關する資料は現在入手し得る參考資料には殆んど包含されて居らぬので以下各種の定期刊行物に掲載されてある資料に據つて論旨を進める事とする。

註。筆者は主として左記の二種刊行物に據つた。英露議會委員會が不定期に刊行する「英露議會委員會時報—Anglo-Russian Parliamentary Committees News Bulletin」^ソ聯邦商業會議所經濟調査—U.S.S.R. Chamber of Commerce Economic Survey

所謂外露と稱されて居る地方の經濟的發展を觀ると、先づ國民貨幣所得總額は小賣商の賣上高（此の期間に於ては小賣商賣上高統計には工場の食事給與額が包含されてある。統計便覽に據る）、此の賣上高を除く消費財購入費（賃貸料、鐵道運賃等）、投資總額、政府事業（行政費及び國防費を含む、但し勞働者に現金にて支給する社會保險料を除く）のループル價額に基いて計算される。右の所得總額には農家及び協同農場の自給食糧の價額を加算せねばならぬ、併し此の價額は目下の所では如何程に見積つても差支ない。

此の所得總額は別個の角度に據つて決定される所得總額と一致せねばならぬ、此の別個の所得總額は賃銀、給料、農産物處分に依る農家の現金收入、非組合所屬賃職人の所得、間接税の徴收額、工業利潤の國家徴收額の總額であり此の總額には前回と同様に農民の自給食料の價額として隨意に定め得る數字を加算せねばならない。一九三四年以後に於て經濟機構に生じた最も重大な變化は、一九三五年に於ける限定食料給與制と組合加入勞働者使用工場（Otkhod

shops) (一部の工場を除く)の漸次廢止された事である。一九三五年十月一日以後には食糧価格は舊公定價格と自由價格とを折衷して構成された。

併し収益税は小賣價格の大部分を占めて居り、一九三五年度末には一切の食料品小賣價格の約七五%は収益税であつて、別に七%乃至一〇%は配給費(ツフェギントツオフ氏の覺書に據る)であつた。

即ち農民の現金収入は食料品小賣價格の一五%乃至一八%に達してゐた譯である。

一九三四年と一九三五年には農民の主なる収入は工藝作物賣上高、社會保險料、その他の収入を以て構成されてゐたものと推定される。農村地方の小賣商賣上高は指數(ソ聯邦商業會議所の發表せるもの)に據るとその大體を窺ひ知る事が出来る、而して一九三三年以後の賣上高増加を見ると、一九三四年には一五・六十億ルーブル、一九三五年には二一・九十億ルーブル、であつて、都市に於ける購買額を參酌すると是等の數字は一九三四年分は一八・二十億ルーブル(計算方法は上記の場合と同じ)、一九三五年分は(若干過大に評價して)二五・四十億ルーブルと成る。

以上の計算を行ふならば、一九三五年度の國民貨幣所得額を算定し得る譯である。公債及び直接税を除いた國庫收入總額は便宜間接税と看做した(ソ聯邦便覽の一九三五年度豫算數字に據る。貨物在庫の再評價より生ずる収益は除外した。一九三六年度數字はツフェギントツオフ氏の調査に據り、一九三七年度數字は英露議會委員會時報一九三七年二月一日に據つた)。農民の自給食糧價格は除外した。

小賣商賣上高	十億ルーブル			備考
	一九三五年	一九三六年	一九三七年	
七三・八	八三・七	一〇五・五	ソ聯邦商業會議所の數字に據る	

家屋賃貸料とその他の料金	二・五	(三・〇)	(三・〇)	一九三五年分はソ聯邦便覽に據り、一九三六年分及び一九三七年分は英露議會委員會時報に據る(註參照)ソ聯邦商業會議所の數字に據る(註參照)ソ聯邦商業會議所の數字に據る
政府投資總額	三五・二	三二・四	三九・〇	
工業利潤徴収額を財源とせる投資額	五・九	八・一	(九・〇)	
政府事業費				
國防費	八・二	一四・八	二〇・一	
その他(社會保險の現金拂戻額を除く)	一四・九	一六・〇	二一・〇	
計	一四〇・五	一五八・〇	一九七・六	
賃銀及び給料	五六・二	七一・四	七八・三	
間接税	五六・九	七一・七	九〇・〇	
農民の現金収入	二五・四			
賃職人の所得	三・四	四・一	四・五	英露議會委員會時報に據る。一九三七年二月一日及び一九三七年十月十日現在
計	一四一・九			
貨幣賃銀平均年額(ルーブル)	二、二九〇	二、六七七	二、九八〇	百五十萬人としその所得額は普通賃労働者のそれと同一額であると假定した

註。會議所の數字は次表の通りである。

	十億ルーブル		
	一九三四年	一九三五年	一九三六年
國營事業の利潤	六・四	七・八	一一・三
その中工業利潤	四・九	五・九	八・一

一九三五年度分の各数字は相互に緊密な一致を示して居り、個々数字の正確性を照査する上に有効な資料であり、且つ一九三六年及一九三七年(註)の事情を調査するものとしての此の方法の正確性を照査する上にも有効である。

註。一九三八年十一月七日英露通信局新聞に據れば一九三七年度の國防費は二十七億ルーブル、國家投資總額は四・七三十億ルーブル、収益税徴収額は九七・三十億ルーブルであつた。

前掲の表では「農民の現金収入」の項目に於て一九三六年、一九三七年の数字は不詳である。此の不詳数字を定差に基いて計算しても、計算結果は表の他の部分より生ずる累積誤差を含むものと成る。計算結果は恐らく一九三六年に付ては一十億ルーブル、一九三七年に付ては二十五億ルーブルと成らう。孰れにしても農民の現金収入の一九三六年分と一九三七年分とは一九三五年分と同額又はより尠いと推計して宜いであらう。

農民収入の實額を表示するは困難であるが此れに反して國民貨幣所得額の計算は容易である。

此の計算を行ふに當つて先づ第一に農産物及び畜産物の生産額を計算する必要がある。人口一人當穀物生産数字は屢々引用されては居るが併し無意義である、と云ふのは穀物收穫量の大部分が家畜飼料として消費されてゐるからである。チエコウイチの計算結果に従ふと人口一人當穀物消費額は次表の通りである(世界經濟研究所報告一九三二年四月號第五一〇頁)。

農 村 人 口	人口一人當穀物年消費額(疍)		
	一九一三年	一九二八年	一九三三年(豫定)
農 村 人 口	二三四	二二一	二三四
都 市 人 口	一九〇	一七九	一七九

計	四二四	四〇〇	四一三
---	-----	-----	-----

特定の地方(例へば一部露西亞農村地方)又は穀物以外の食糧が缺乏した特定時期(例へば一九三三年)には一人當穀物消費額は増加する傾向を有して居る、併し一人當年消費額が二三四疍に達する現象は恐らくメキシコを除いては全世界にその比を求めんとするも能はざる稀有の現象である(國際勞働局年鑑一九三五—六年分。食糧消費額第十八表)。若し人口一人當年消費額を二二五疍と假定するならば穀物收穫高(註)を次表に示した如く算定し得よう。

註。此所で謂ふ穀物とは小麦、ライ麦、玉蜀黍、燕麥、大麦を合したものであつて、一九三四年迄の分は統計便覽に據り、その後の分は英露議會委員會時報(一九三七年十月十五日)に據つた。輸出額は商業會議所の調査数字である。

次表を検すると、最大缺乏時期である一九三二年以後には家畜飼料用穀物の數量は著しく増加して居る、但し一九三三—四年度の人口一人當消費額は一九一三年分と同一である。因に穀物生産額に關する露西亞官廳統計がメートル噸(一、〇〇〇疍)を單位とせず舊露西亞單位であるブード(約三十六听)を使用してゐる事は注目を要する。

年	次	百 萬 × 1 ト ル 噸		
		穀物收穫高	穀物輸出額	家畜飼料として消費せる分
一九一三(現ソ聯邦領土)		七二・〇	九・〇	三二
一九二八		六六・七	：	三三
一九二九		六五・〇	〇・二	三〇
一九三〇		七六・六	四・八	三六

一九三一	六三・九	五・一	二・三
一九三二	六二・〇	一・七	二・三
一九三三	七九・九	一・六	四・一
一九三四	八〇・一	〇・六	四・一
一九三五	八八・〇	一・五	四・八
一九三七	一一五・〇	：	七〇―七五

因に畜産物生産額の増加を圖るには過剩穀物を飼料に向ける事が基本的要件である事を想起する必要がある。
 一九三五年以後の家畜頭数は正確には判明してゐないが一般には次の統計が使用されてゐる。次表は一九三四年、一九三五年、一九三六年(豫定頭数)の現在頭数と一九三五年度の増加割合を示す(ツフエギントツオフ氏の計算結果に據る)。

	一九三四年	一九三五年	*一九三六年 (豫定頭数)	**一九三五年度の 増加割合
牛	三九	四六	五四・〇	六・九
綿羊	四一	五一	六二・〇	八・九
豚	一七	二二	三一・五	八・六

*他の豫定数字に付ても同様であるが、此の年に於ける豫定頭数は同年は勿論、その後の年に於ても得られなかつた。英露議會委員(一九三八年五月七日)は一九三七年及び一九三八年に於ける家畜頭数を發表して居る。一九二九年分は同委員會に依り發表されなかつたので國際聯盟統計年鑑に據つて本表に掲げて置いた。

*増加割合は商業會議所の發表せる分である。

	頭数 (百萬頭)				
	一九二九年	一九三三年 春季	一九三四年 七月	一九三七年 一月一日	一九三八年 一月一日
馬	三四・六	一六・六	一五・七	一五・九	一六・二
牛	六七・二	三八・四	四二・四	四七・五	五〇・九
乳牛	三〇・四	一九・七	一九・六	二〇・九	二二・七
綿羊及び山羊	一三二・八	五〇・二	五一・九	五三・八	六六・六
豚	二〇・五	一一・一	一七・五	二〇・〇	二五・七

一箇年間に豚頭数を九百五十萬頭増殖させる増産計畫は疑ひも無く失敗した。併し一九三七年分の五百七十萬頭の増加は豚その物の旺盛な繁殖力を念頭に置くならば強ち疑問視すべきではなく、現に繁殖力が如何に強いかは英國統計(註)を参照しても首肯出来るのである。

註。英國農業統計一九三六年第一編第四八頁及第七二頁参照。ドレッツシャア「世界經濟研究所報告一九三五年三月號第二七七頁」は一八五〇年以降の英國に於ける豚の年頭数と屠殺頭数の割合を調査した、その結果に従へば此の割合は同年から現在に至る迄に僅か一・一六より一・二二に増加したに過ぎない。

英國では一九三五年六月―一九三六年六月に至る間に豚頭数は殆んど増減せず三百八十萬頭であつて、その中一三%は種豚であつた、同年の豚屠殺頭数は五百三十九萬頭である。此の割合を基準として考察すれば、豚の飼料と成る穀物が豊富であると假定して、一九三六年度の露西亞の豚頭数二千萬頭は五百七十萬頭増加し得、屠殺豚二百二十萬頭分の肉が生産される、即ち週一人當六・二オンスの豚肉が得られた事と成る。若し四百萬頭の増産計畫が成功し

たと假定し且つ現実に成功したならば、加ふるに此の頭数が最大の増産目標であり且つ飼料としての穀物も豊富であるとするならば、年當屠殺頭数は五千七百萬頭と成り、週一人當豚肉消費量は一六オンスと成る。英國では屠殺當時の平均死體量一六〇封度の豚を肥育するには八ハンドレツド・ウェイト即ち〇・四一メートル噸の穀物を必要とする(ケムブリッジ大學農學部豚飼育の經濟調査に據る)。従つて屠殺頭數五千七百萬頭の豚を肥育するには一九三七年度に於て七千萬噸乃至七千五百萬噸に達すると推計された過剩穀物の中僅か二千三百萬噸を飼料に向ければ充分な譯である。従つて少くも豚肉に限つて謂ふならば露國民の食糧消費高はもつと多くとも差支ない譯である。

次に牛に付ては、乳牛頭數は一九三二年には二千一百萬頭に減少し、一九三三年及び一九三四年(統計便覽に據る)には更に一千九百六十萬頭に減少した。纏つて英國の數字を觀ると次表の如くである(英國農業統計一九三六年第一篇第四八頁及び第七二頁)。

年次	一ヶ年間の平均乳牛飼養頭數(千頭)	一ヶ年間の犢屠殺頭數(千頭)	一ヶ年間の犢頭數増減(千頭)	乳牛一頭當犢生産頭數
一九三一—二二年……	二、八三〇	七、八七	增 九七	〇・三一
一九三二—三三年……	二、九一二	八、二三	增 六	〇・二八
一九三三—四四年……	二、九七五	九、二七	減 五七	〇・二九
一九三四—五五年……	三、〇二二	一、〇五九	減 八	〇・三二
一九三五—六六年……	三、〇六三	一、〇二〇	增 四九	〇・三五

各種の損耗を參酌して(此等損耗の割合は露西亞では英國よりも多いものと推定される)見ると、犢屠殺が全く停止するとしても乳牛一頭年當牛生産頭數は最大限度〇・三頭に過ぎない。此の數字を基準とすれば露西亞の増産計畫

が牛の年増加頭數を七百萬頭として居る事は(少くも理論上に於ては)考へ得られぬでもない。一九三三—三四年間には犢頭數は四百萬頭増加し、乳牛頭數は増減なく一千九百六十萬頭であつた、即ち年當屠殺頭數は百萬頭乃至二百萬頭と推定されるのである。犢を孕まない牝牛が全然屠殺されず又斃死しないと假定するならば、繁殖用頭數は一九三六年には頭數に於て際かに増加を示さねばならぬ譯である。次に現在の牛乳生産高はその最大限度に達した場合には一九三三—四年度に比較して二〇%増加すると推定する事が出来る。但し斯く増加するには穀物及びその他の飼料が豊富に得られる事を先決要件とせねばならない。

次に綿羊及び山羊を觀察して見ると、先づ此等の頭數は一九三七年初頭には五千四百萬頭である、一年間の増加頭數が一千三百萬頭とすれば一九三七年度には八百萬頭を屠殺し得る譯である。但し此の屠殺頭數を以てしては週一人當肉平均消費量は僅かに〇・六五オンスに過ぎない。

以上畜産事情を考察した目的は一九二六—七年度の相場を用ひて政府が推計した畜産物生産額を照査するにある。政府の推計數字(ソ聯邦の發達に據る)は次表に掲げる通りである。

	一九一三年	一九三四年	一九三五年	一九三七年
英國一九三三—四年度小賣物價を以て表示せる前掲畜産物總消費高の推計價額(百萬磅)………	六〇六	五〇〇	…	…
一九二六—七年度相場を以て表示せる畜産物生産高の政府推計價額(十億ルーブル)………	四・六	…	三・九	六・四

即ち政府の推計數字に據ると一九三三—五年度の總消費額は一九一三年度の額に比較して一五%の減少を示してゐる。以上の計算結果に従ふと一九三三—四年度の消費額は一九一三年度のそれに比較して一七・五%の減少を示して居り、従

つて政府の数字と大體に於て一致して居る。但し一九三五—三七年間の純増加割合六四%を證明する事は不可能であらう。

政府が一〇、〇〇〇の工業労働者家族の食糧消費状況に付て行つた標本調査(英露議會委員會報告に據る)に據ると消費額の増加割合は次表の如くである。

	一九三四—三五年	一九三五—三六年
肉類	一〇	四三
牛乳	二一	二三
バター	二一	未公表
卵	五八	未公表

本表には顯著な増加割合を特に選んで掲げたものであらう。次に都市の消費額は農村の消費額に比較して更に一層相対的增加を示して居るものと推定される。

穀物及び馬鈴薯の一人當消費額には増減がなかつたと假定し得よう。甜菜生産額は次の通りである(統計便覽及び「ソ聯邦の發展」に據る)。

	甜菜(百萬噸)	砂糖(千噸)	砂糖輸出(千噸)
一九一三年(ソ聯邦現領土)	一〇・九	一、一九〇	一一五
一九三三年(同)	九・〇	一、〇八四	三三

	一九三四年(同)	一九三五年(同)	一九三六年(同)	一九三七年(假数字)
甜菜(百萬噸)	一一・四	一四・〇	一六・八	二二・〇
砂糖(千噸)	一、三五〇	一、九九八	二、六六〇	三三

以上の数字を基準として考察すると人口一人當砂糖消費額は八五%増加したものと推定される。

従つて一九三四—三七年間の人口増加率が四・五%である事實を念頭に置くならば一人當食糧消費額(英貨に據る)を次表の如く再計算し得よう。

	一人當正貨ペンスにて表示せる一人當食糧消費額	
	一九三四年	一九三七年
パン	一八・七	一八・七
砂糖	一・二	二・二
馬鈴薯	三・七	三・七
植物油	〇・二	〇・三
肉及び脂肪	四・五	五・七
牛乳及び乳製品	五・二	六・〇
計	三三・五	三六・六

以上の外に卵、魚類、果實、蔬菜、その他記録されない食料品(總額の中で少い割合を占めるもの)の一人當消費

額も以上の主要食糧品と同一の割合で増加したと假定するならば、一九三四—三七年間には一人當消費額は英貨に於て九%増加し、食糧全體としては一四%増加したとの斷定を下し得よう。國際聯盟編「一九三七—三八年世界生産額と物價」の推計數字に據ると一九三七年の露西亞に於ける農産物及び畜産物の生産額は一九二五—九年の平均生産額よりも一%減少してゐる。一九二八—三七年間には人口は一七%増加し、従つて一人當食糧額は一五・五%減少した譯である。前表に掲げた一九三七年一人當消費額三六・六ペンスに卵消費額一・〇ペンスを加算すると一九二八年度の四五・六ペンスに比較して一七・五%の減少を示して居る。以上の推計結果は大體に於て正確である、と云ふのは此の期間には非食用農産物(棉花、その他)の生産割合が増加したものと推定されるからである。一九三四—七年間のパンを除いた食糧の消費額は都市に於ては全體としては三五%増加し、労働者一人當としては二〇%増加した。工場食糧消費額(一九三三—四年度に於てパンを除く都市食糧消費額の三分の二を占めてゐる)は一人當に於ては他の食糧購入額と同一の割合で増加して居ると推計される。

次には以上の食糧供給額に對して支拂はれたルーブル價格を推計せねばならぬ。限定食糧給與制の廢止された頃には、新價格は當時の公開市場價格よりも三〇%乃至三五%低かつたと推計された(英露議會委員會報告一九三四年十月六日)。此の事實はパンを除いた各種食糧に於ては次に述べる計算結果に依つて證明されて居る。勿論パン價も昂騰した、併し工場支給食糧の價格には増減なく、その總賣上高は一九三四年より一九三七年に掛けて略倍加したと推定されて居る(商業會議所の數字に據る)。他の食糧價格の増減を計算するに當つては限定食糧給與制の廢止前後の一九三三—五年度價格を比較し、主要食糧品の加重平均を計算するには一九二七年度家計調査結果(國際労働局月報一九二九年)を資料として用ひた。計算に際しては食糧價格が一九三五年以降には昂騰しなかつたものと假定した。

	一九三三—四年度労働者一人當支出額(ルーブル)	一九三五年十月現在物價にて表示せる同一額	一九三三—七年度の額
パン	二一・五	五三・三	五三・三
工場支給食糧	一八・〇	一八・〇	二九・六
その他の購入食糧	四八・五	二九・九	三八・〇
肉類	二九・九	一八・九	二三・九
バター	七・四	四・一	四・七
砂糖	三・二	二・四	四・四
馬鈴薯	三・八	一・一	一・一
牛乳	四・二	三・四	三・九

即ち一九三七年に於ては労働者一人の食費支出月額は一二〇・九ルーブルである。

家賃賃貸料に關しては、ポラニイ教授が一九三三—四年度の都市労働者一人當住宅面積一〇平方メートルの賃貸料を計算した結果を利用して見ると、一九三三—四年度の都市住宅總面積は二〇五萬平方メートルであつて、此の面積は一九三三—五年度及び一九三六年には夫々四・七百萬平方メートル、一〇百萬平方メートルの増加を示して居る(ツフエギントツオフの計算に據る)。従つて家屋の損傷部分を參酌すると結局此の三ヶ年間に約一二%の面積増加を示して居る。反之、農村住宅面積は純増加を示して居らなう。

次表は輕工業及び重工業を合した工業生産額で、資料は「一九三七—三八年國際聯盟統計年鑑」である。各種類別生産額を加算する爲には此年産額の一九三三—四年度價格を同年鑑に掲げてある如く金フランを用ひて再表示した。セメ

ント、鋼鐵、自動車、織物に付ては單位當金フラン價額を推計した。

一九三七年度總額は利用し得られる資料と不明の資料との相對的傾向に鑑みて、利用し得られる資料に據つて推計した(一九三七年度分の利用し得られる資料は一九三四—六年の平均よりもヨリ急激な増加を示して居る)。一九三七年度の工業生産額は一九三四年度のそれに比較して約六七%増加して居る。

露西亞工業生産額 (百萬金フラン)

	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
石炭	一、一五一	一、三三五	一、五一五	一、五〇二
鋼鐵	一、四五五	一、八九〇	二、四三五	二、六七五
石油	五一五	五三五	五八一	五九〇
綿製品(生棉より推計す)	七〇〇	一、一二五	一、五〇〇	一、五八〇
羊毛製品(生毛より推計す)	四五〇	五五八	七一〇	九一〇
貨物自動車	二七五	三九〇	六六五	九一〇
乗用自動車	五一	五七	一一	五四
アルミニウム	二〇	三四	五三	六三
銅	二二	三一	四一	四五
棉實	六八	一〇〇	一四八	一五五
鉛	四	六	八	九
レイヨン	二八	三一	三二	三六

木材バルブ(化學用)	六二六	六六六	七二八	：
同(機械用)	一六九	一七二	一八六	：
セメント	一〇六	一三四	一七五	：
トラクタア	一七四	二一一	二一五	：
過磷酸	二二	三一	三三	：
計	五、八三六	七、三〇六	九、〇三七	八、五二九

鐵道噸哩數の統計は一九三五年分と一九三六年分が判明してゐるが、それに據ると一九三四年分に比較して夫々二六%及び五八%の増加を示して居り、前表の増加割合二五%及び五五%と大體一致して居る。因みに、鐵道輸送能力の不充分な事が工業發展速度を阻める一大障礙であると斷定を下しても大過ないであらう。一九三七年には一九三六年に比較して一六%の工業増産計畫が確定した(ソ聯の發展に據る)。併し貨物量が最近益々増加し且つ幅狭して居る狀況に鑑みると此の計畫が成功するかどうかは頗る疑はしいのである(ソ聯邦便覽及び英露議會委員會報告一九三七年二月一日に據る)。

	一九一三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
鐵道噸哩數(千キロメートル)	五八・二	八三・二	八四・〇	八五・一
貨物輸送量(一億噸キロメートル)	六五・七	二〇五・六	二五七・六	三二三・五
年當キロメートル當貨物量(百萬噸キロメートル)	一・一三	二・四七	三・〇六	三・八〇

次表は主要工業國に於ける貨物量を示す(獨逸國統計年鑑一九三六年に據る)。

		—キロメートル當百 萬噸キロメートル (一九三四年又は一九三五年)	—キロメートル當百 萬噸キロメートル (一九三四年又は一九三五年)	
北米合衆國	一〇・八	白耳義.....	〇・九八
英 國	〇・八三	瑞 典.....	〇・二一
獨 逸	一・一七	加 奈 陀.....	〇・五〇
佛 蘭 西	〇・八一	濠 洲.....	〇・一三

此等各國の數字と露西亞の數字を比較して見ると其處に驚くべき結果が得られる、即ち一九一三年に於て既に貨物輸送量が過重と成つてゐた露西亞の鐵道は今や同年に比較して三倍半もの増加を示す、甚大な貨物量を處理しようとして居るのだ。従つて鐵道事故が頻繁である現象を目して陰謀や破壊主義の所爲と解するは的外れも甚しいと謂はねばならない。

此の逼迫してゐる運輸事情は最近内海運輸機關の發達したお蔭で多少緩和するに至つて居り、一九三四年度の内海運輸に依り處理された貨物量は八一・六百萬噸（前年度の鐵道輸送量は三一・六百萬噸）に達した（ソ聯邦便覽に據る）。併しその反面には、（軍事的理由及びその他の理由に基いて）ウラル地方及び西比利亞に新工場が簇生するに至り従つて平均輸送距離が著しく延長するに至つたが爲に貨物輸送の問題は一層困難と化して居る。年次別輸送哩數は次表の如くである。

年	次	平均輸送距離（キロメートル）
一九一三	四九五

一九三四	六五〇
一九三六	六七〇

露西亞の資本減價總額を計算するに當つては、一九三四年度物價を用ひて一九三七年度の計畫に依る資本總額を表示せる數字（ソ聯邦便覽に據る）、即ち一九三四年度の一一・二十億ルーブルに對する一九五十年億ルーブルを用ひ、且つ減價額は此の資本額の増加と歩調を合せて増加したものと假定して見よう。

先に肉消費額を計算するに當つて家畜頭數が一九三七年迄は増加したが、同年以後には増加せず、従つて此の形態に於ける資本蓄積額を評價する必要はないと假定した。併し他と切離し別個に評價する必要ある特殊の資本蓄積形態がある。それは即ち金及び在外資産である。一九三六年六月より十二月に至る此等資本の増加額は三八・二億金ルーブル（〇・一七七六金グレインのルーブル）に達した（國際聯盟統計月報に據る）。その後の數字は不明である。本數字は八ヶ月間の數字を基礎として居る。此の外にもソ聯政府は多額の資本を隠匿して居るものと推定される。一九三七年には出超額は約一四〇百萬金ルーブル（國際聯盟統計月報に據る）に達し、金産出額は殆んど一、〇〇〇百萬ルーブル（國際聯盟統計年鑑に據る。一九三五年度の推計數字）に達した、一方、貿易外收支計算に據れば収入額は實に二五〇百萬ルーブルに達した（商業會議所の報告一九三六年七月には一九三五年度の貿易外費目が掲げてある。その後には外國利附債務が消滅したと假定してある。）以上を合計して得られる一、三九〇百萬ルーブルは何等かの形態に於てソ聯邦政府の投資總額に繰入れられ投資總額の名目價格は五五百萬磅となるに相違ない。

以上計算を行つた後には一九三七年度の國民貨幣所得を完全に再評價し得る譯である。それには一九三七年度の三項目「その他の小賣商品」、「政府事業と國防費」、「內國投資總額」の合計（磅價額）を一九三四—三七年間の工業生産増

加額から控除せねばならぬ。

	一九三三—三七年間 (十億ルーブル)	一九三三—三七年間 (百萬磅)	一九三三—三七年間 (十億ルーブル)	一九三三—三七年間 (百萬磅、一九三四年 度物價に依る)
食糧消費額				
農村	二一・六	一、一一〇	三四・九	一、七〇五
都市(註)	一・五	三八五	二・五	二一五
家屋賃貸料	三三・一	五九六	七〇・六	
その他の小賣商品	一三・〇	五二〇	四一・一	
政府事業と國防費	二六・四	七三八	四七・〇	
投資總額	九五・六	三、五四六	一九七・一	三、〇九二
内國投資額	八・八	二四七	一・〇	五五
外國投資額	計	三、二九九	計	三、〇九二
減價評價額	八・八	二四七	計	五、〇六七
純所得額	計	三、二九九	計	四、六三七

註。一九三七年度賃労働者数は二六・三百万人で、此の数から農業労働者を控除し賃職人を加へると約二四百万人と成る。労働者一人當食費現金支出額平均は上掲の如くである。

總人口の中で労働年齢(十六歳より五十九歳迄)の者の割合は一九二六年(國際聯盟統計年鑑に據る)には五三・七%で一九三三年(ソ聯邦便覽に據る)には五五・三%(農村人口と都市人口の平均)であつた。次に一九三三—三七年の

三ヶ年間は更に五五・五%乃至五六・二%の増加を示してゐる。有業人口は一九三四年には六〇・九百万人で、一九三七年には六四・一百万人(中二四・〇百万人は都市人口)であつた。従つて次表の數字が得られる。

	一九三三—三七年		一九三四年
	人口(百万人)	一九三三—三七年 價に依る所得額	一人當所得額(磅)
農業者	四〇・一	一、七〇五	四二・五
商工業者	二四・〇	二、九三二	一二二・二
計	六四・一	四、六三七	七二・三
			一人當所得額(磅)
			三七・五
			八五・五
			五一・〇

總労働人口一人當平均所得額は一九三三—三七年間に四二%の増加を示して居る。惟ふに農村より都市工業へ労働力の流入する速度は適宜調節されて居り、従つて農業労働者數の純増加は認められない、然るに斯かる事情の下にあつても一人當農業生産額は瞭かに増加して居り、且つ一人當工業生産額はヨリ多くの増加率を示して居る。斯くして露西亞を脅かして來たマルサスの亡靈は今や完全にソ聯から放逐されんとするに至つた。

純資本蓄積額は無慮六〇〇百萬磅に達した。併し若し露西亞にして國民の生活標準を西洋諸國のそれに迄昂めんと欲し加ふるに外國資本の利用を拒否するとするならば今後數十年の間に此の資本蓄積額は謂はずもかな、此れよりも遙かに多額に達すべき將來の貯蓄額をも消耗するであらう。

4880
9

昭和十五年七月十二日印刷
昭和十五年七月十五日發行

農林大臣官房統計課

東京市京橋區木挽町二丁目廿一番地
印刷人 小松代浩三

東京市京橋區木挽町二丁目廿一番地
印刷所 特急印刷社
電話京橋一八八〇番



終

